

第3章

鹿児島市子どもの生活に関する
アンケート調査結果の概要

第3章 鹿児島市子どもの生活に関するアンケート調査結果の概要

(1) 調査の概要

- ① 調査名称：鹿児島市子どもの生活に関するアンケート調査
- ② 調査方法：対象者全員に対するアンケート調査を学校配付・学校回収により実施
- ③ 調査時期：平成29年7月
- ④ 調査対象：鹿児島市の市立学校の小学5年生・中学2年生の子ども及びその保護者
- ⑤実施状況

	小学5年生		中学2年生	
	子ども	保護者	子ども	保護者
配布数	5,600	5,600	5,297	5,297
有効回収数	4,827	4,855	4,362	4,448
有効回収率	86.2%	86.7%	82.3%	84.0%

(2) 集計の方法

所得類型別にクロス集計を行いました。

所得類型別の区分については、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員数の平方根で割って調整した所得）を算出して区分しました。本調査では、保護者への調査問3(1)で「前年（2016年）のおおよその手取り額（ボーナスを含む）」を調査しています。ただし、「200～250万円未満」や「400～500万円未満」といった幅のある数値の選択肢を提示して調査したことから、等価可処分所得の算出にあたっては、それぞれの選択肢の上限値と下限値の平均値を可処分所得として取り扱いました。また、平成28（2016）年国民生活基礎調査における等価可処分所得の中央値は245万円であることから、下記のとおり所得類型を3つに区分しました。

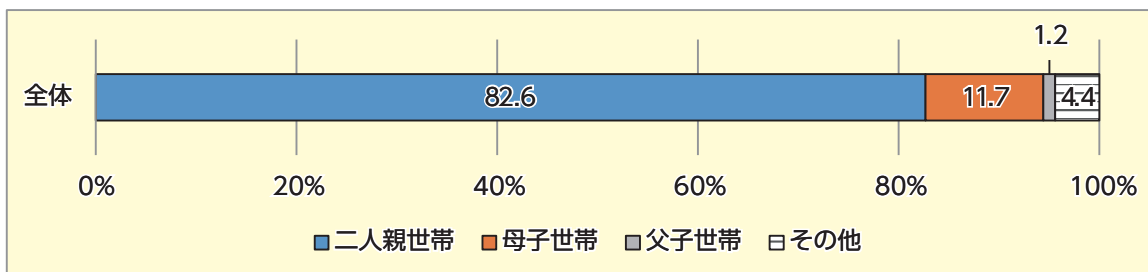
【所得類型別区分】

- ・ A 類世帯：等価可処分所得が中央値（245万円）の50%（122万円）未満の世帯（相対的貧困世帯 P 4 参照）
- ・ B 類世帯：等価可処分所得が中央値未満で、中央値の50%以上の世帯
- ・ C 類世帯：等価可処分所得が中央値以上の世帯

(3) 回答者の状況について

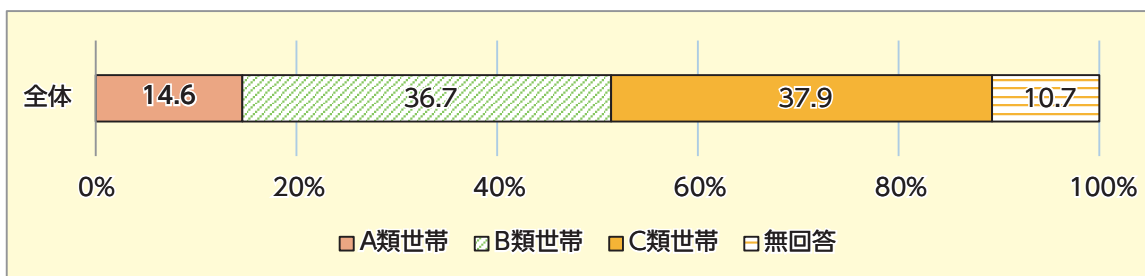
回答者の世帯類型別の構成

世帯類型別では、二人親世帯82.6%、母子世帯11.7%、父子世帯1.2%、その他4.4%となっています。



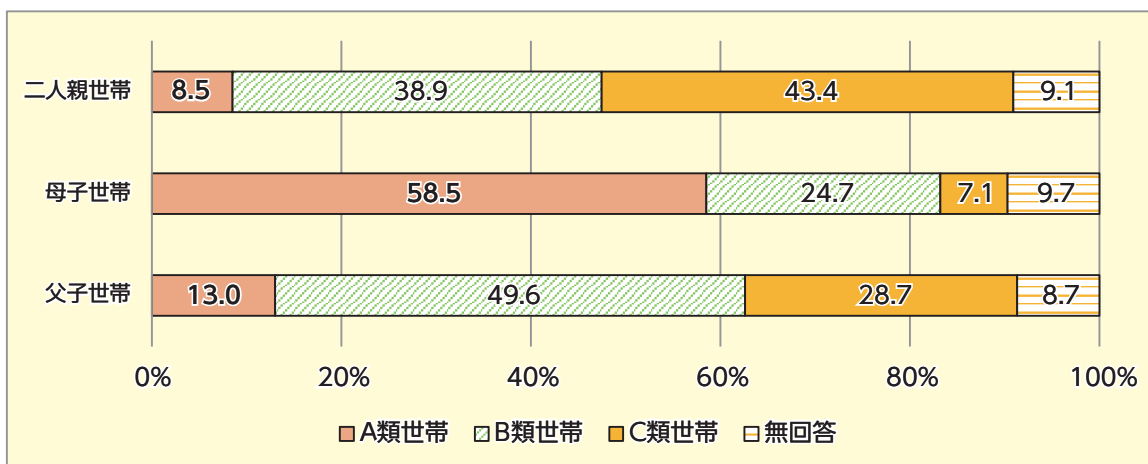
回答者の所得類型別の構成

所得類型別では、A類世帯14.6%、B類世帯36.7%、C類世帯37.9%、無回答10.7%となっています。



世帯構成ごとの所得類型別の構成

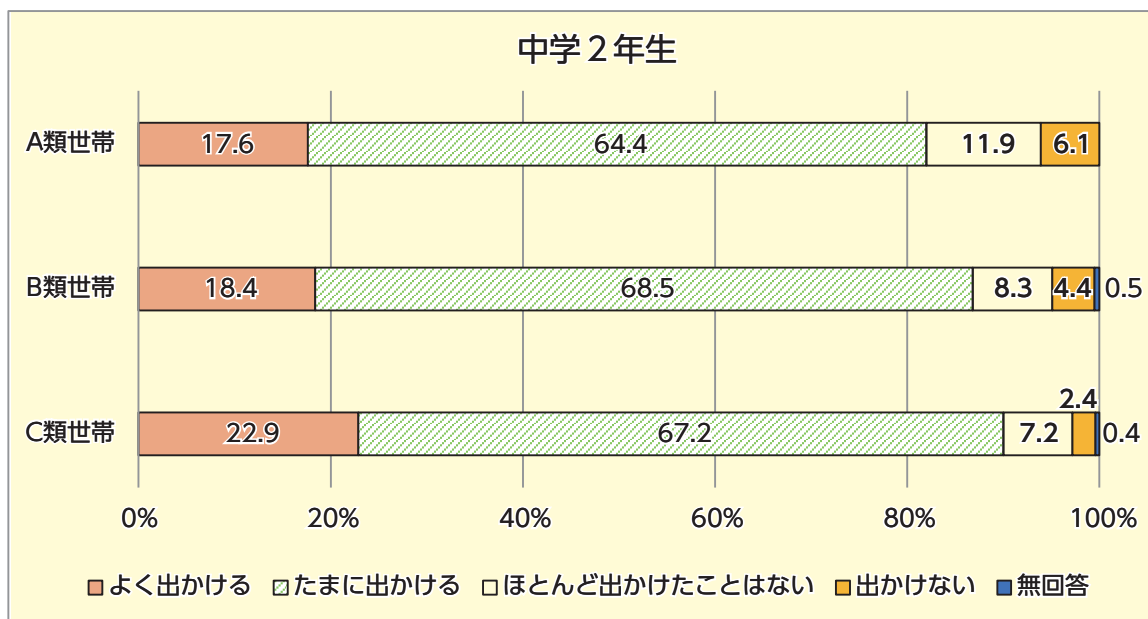
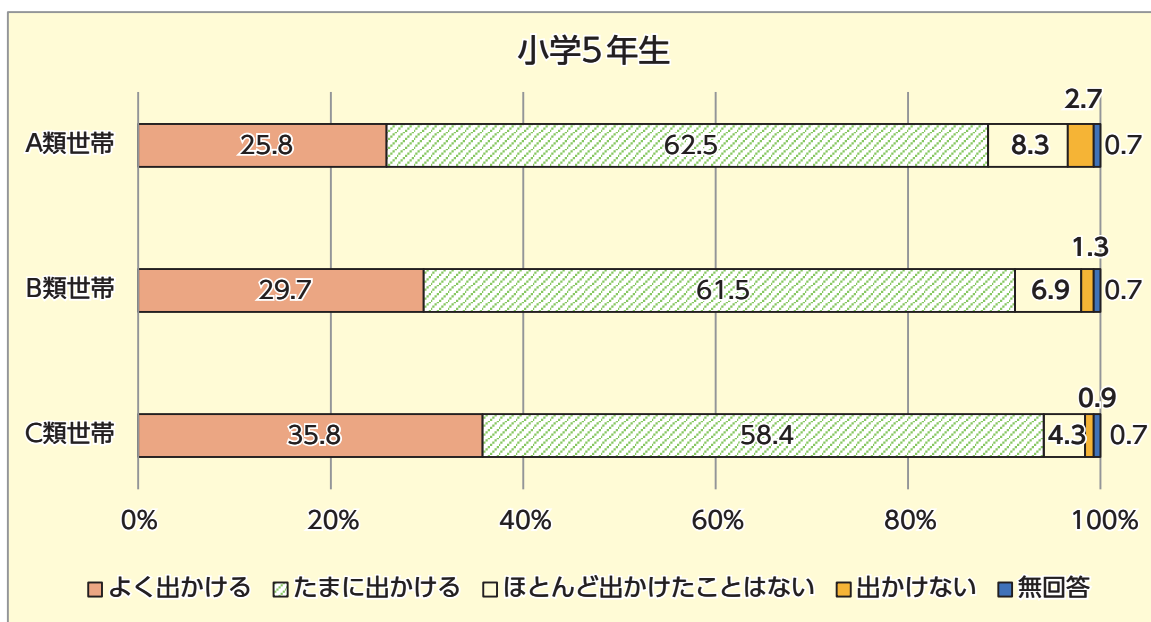
世帯構成ごとにみると、二人親世帯では8.5%、母子世帯では58.5%、父子世帯では13.0%がA類世帯となっています。



(4) 子どもに関する項目

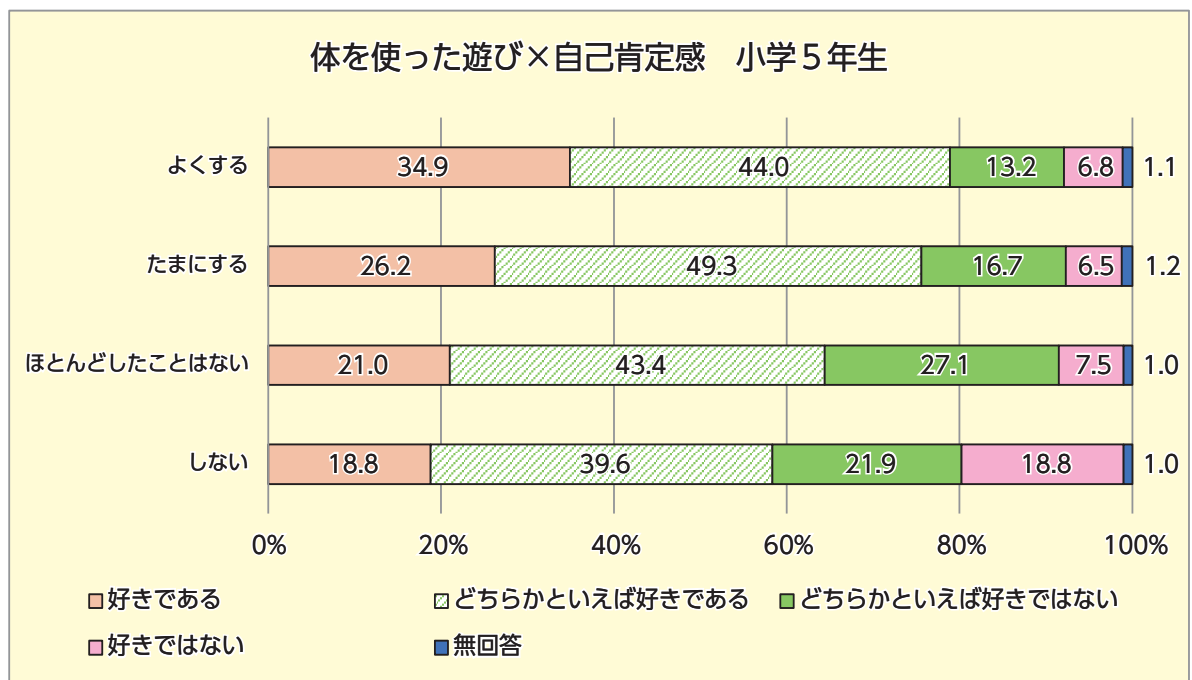
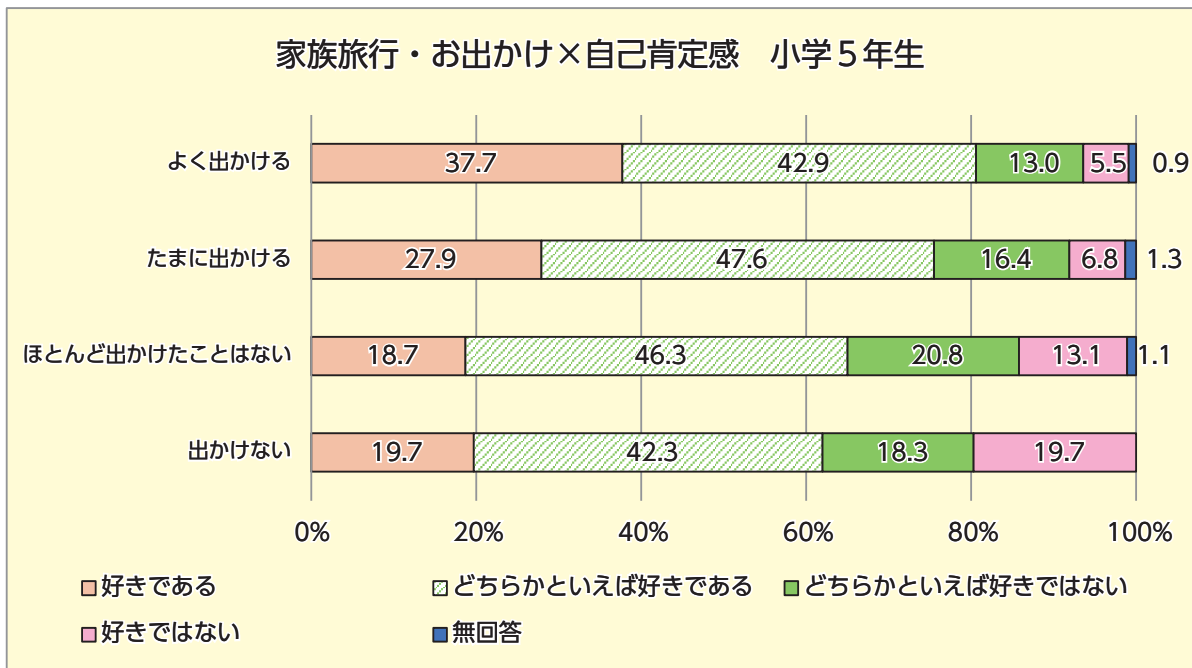
家族旅行や日帰りでのお出かけの頻度（教育に関すること）（生活に関すること）

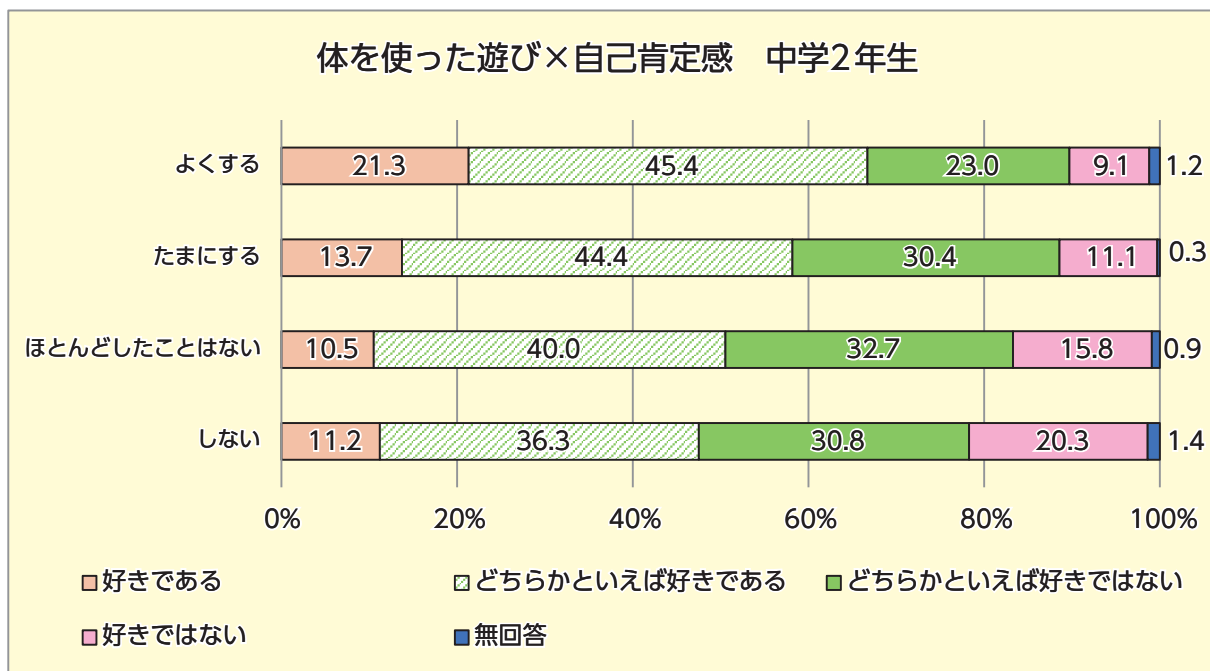
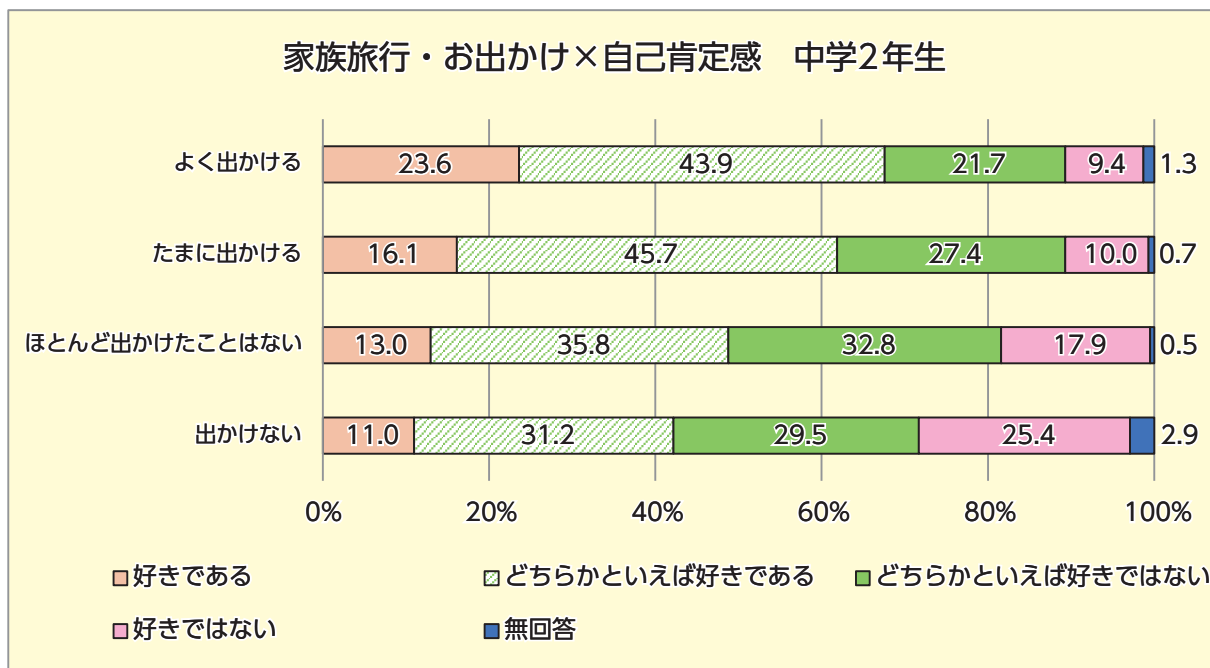
家族の人と一緒に家族旅行や日帰りでのお出かけなどを行っているか尋ねた質問（子ども問8(1)）では、「ほとんど出かけたことはない」+「出かけない」と回答した子どもの割合がA類世帯で高くなっており、家庭の状況により子どもの体験活動に差が出ていることが分かります。



自己肯定感（教育に関すること）（生活に関すること）

家族との体験活動の取組状況（子ども問8）と子どもの自己肯定感※（子ども問15(1)）のクロス集計をみた場合、全体的に体験・活動をよくしていると回答した子どもほど、自己肯定感が高いという傾向にあり、体験活動が子どもの自己肯定感に影響していることがうかがえます。

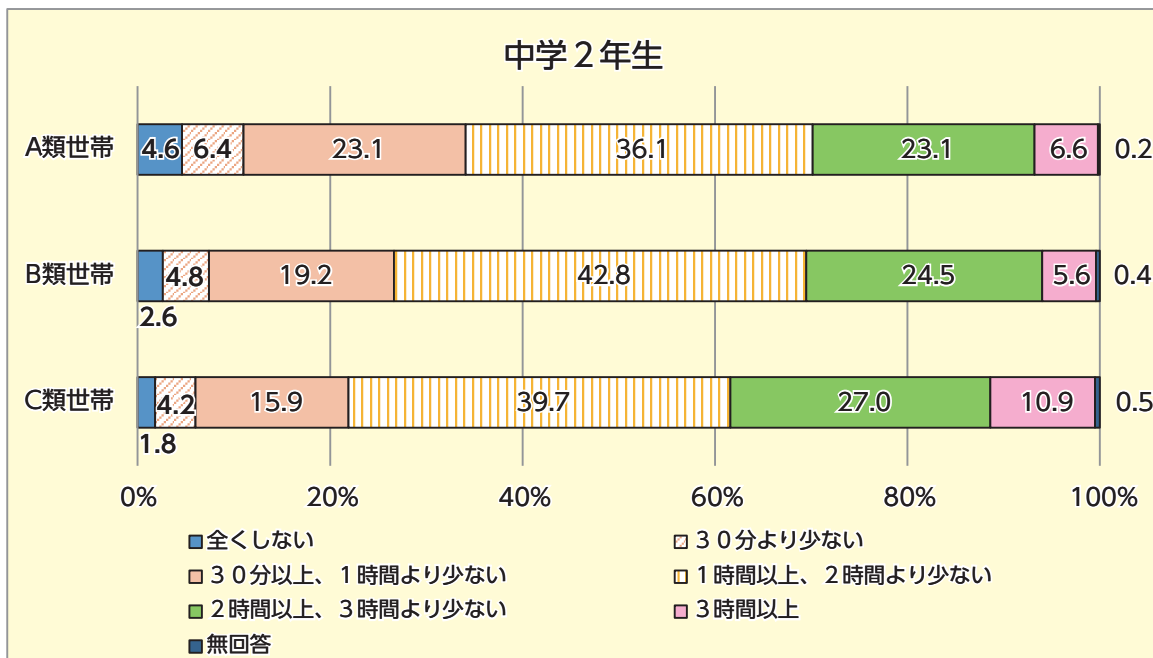
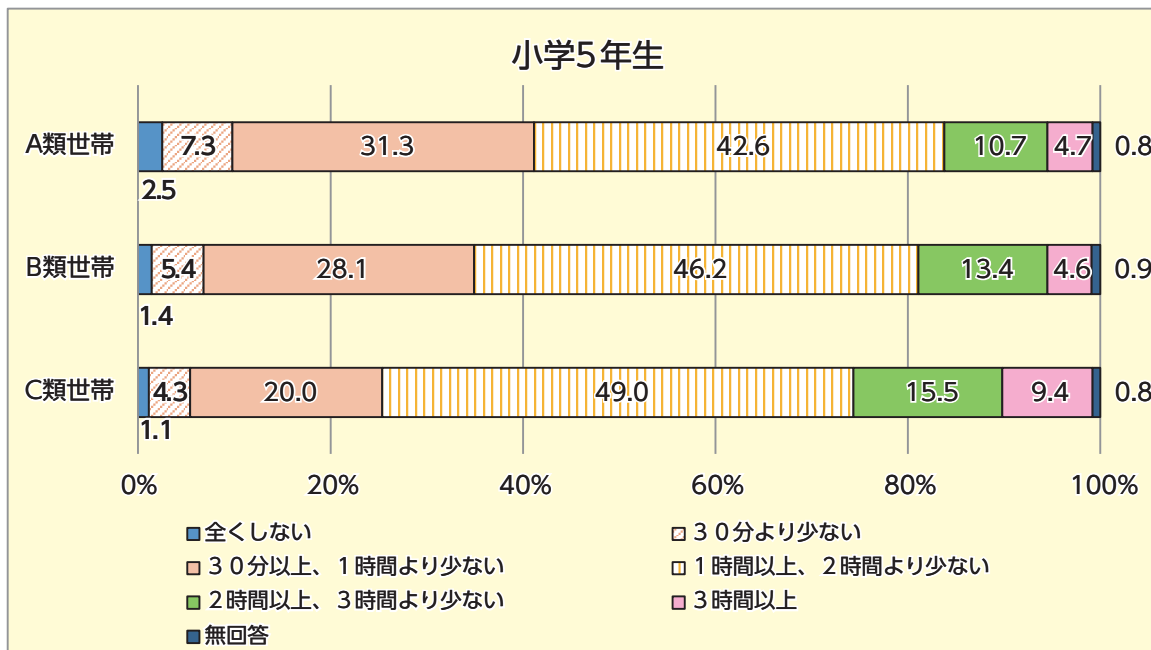




※自己肯定感：考え方は諸説あるが、ここでは「自己に対する肯定的な評価」と捉える。

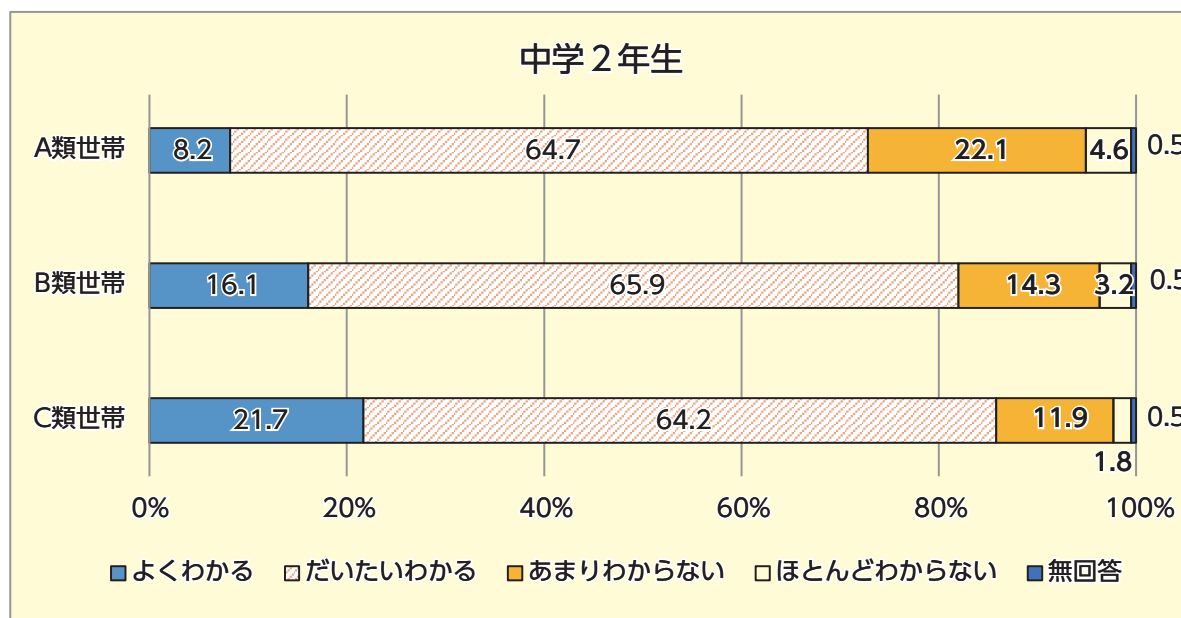
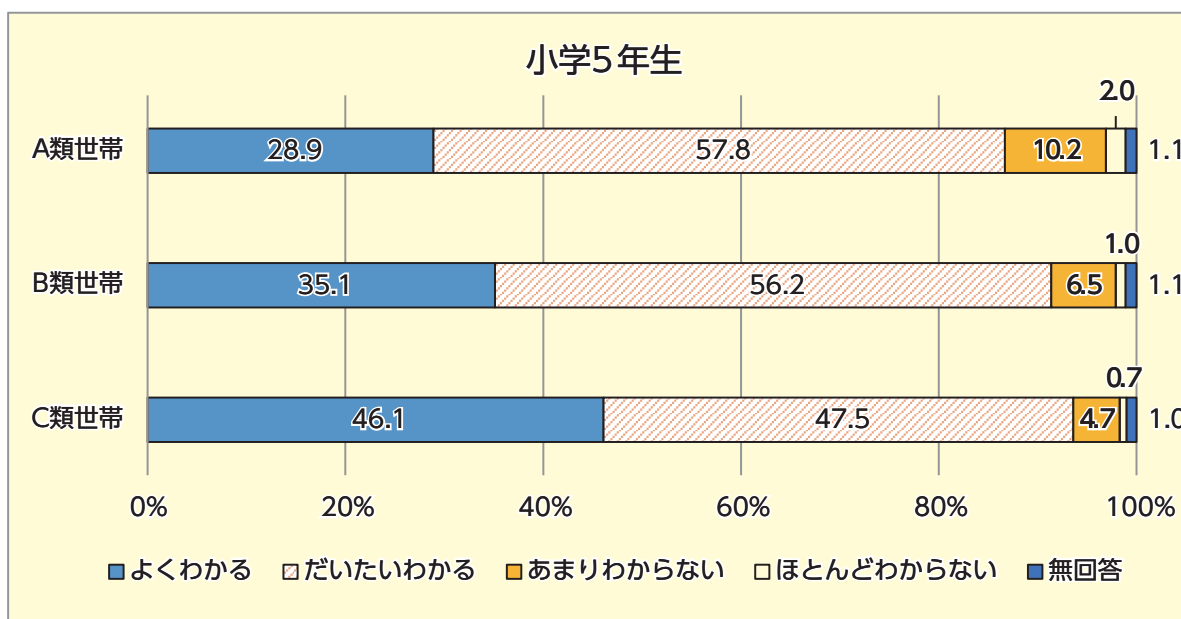
学校以外での学習時間（教育に関すること）

平日に学校以外でどれくらい勉強するかを尋ねた質問（子ども問10）では、「全くしない」+「30分より少ない」と回答した子どもの割合がA類世帯で高くなっており、家庭の状況により子どもの学習時間に差があることがうかがえます。



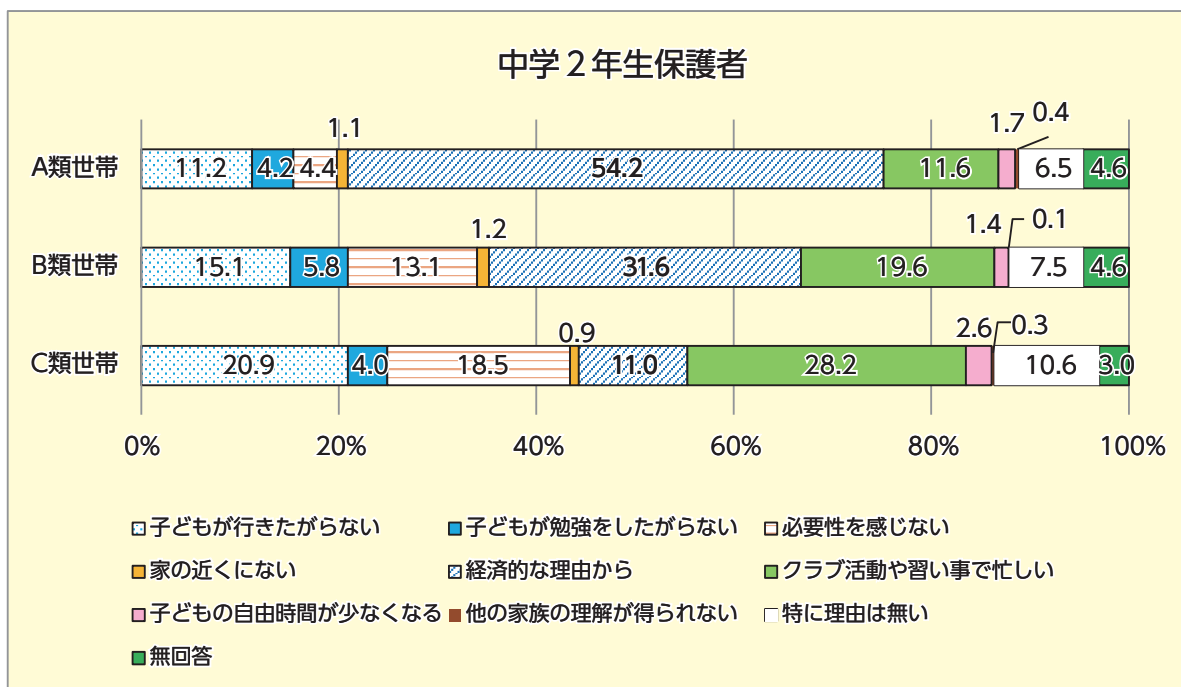
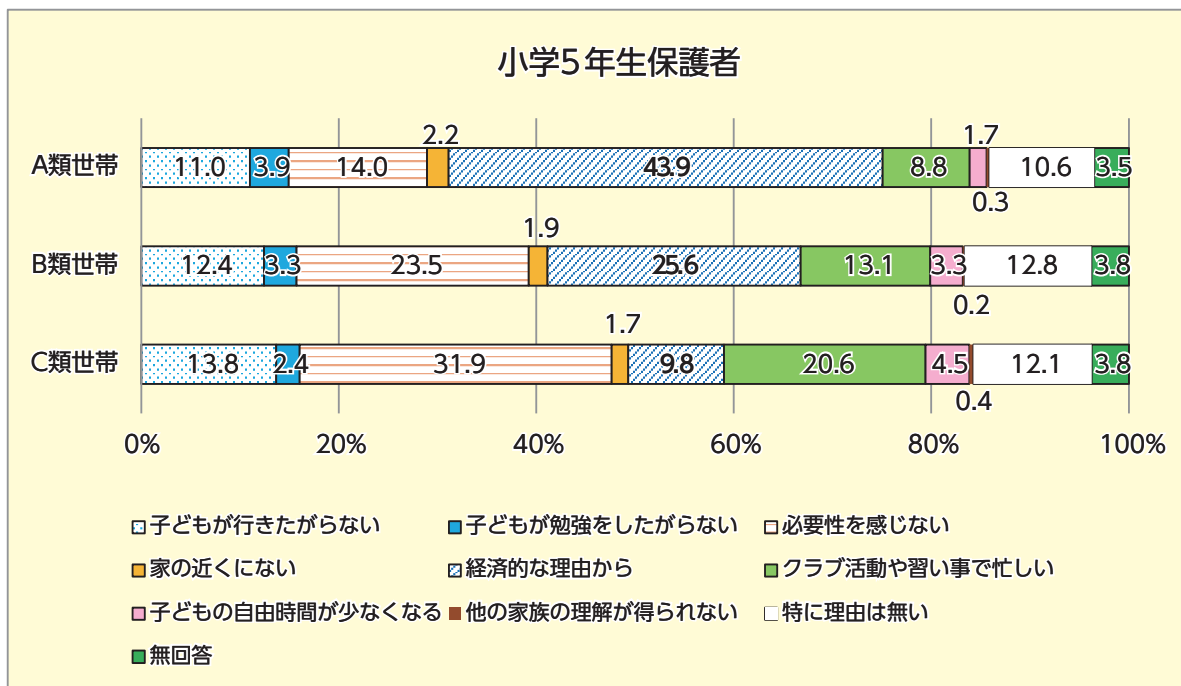
学校の勉強の理解度（教育に関すること）

学校の勉強に対する子どもの理解度を尋ねた質問（子ども問11）では、「あまりわからない」+「ほとんどわからない」と回答した子どもの割合がA類世帯で高くなっており、家庭の状況により子どもの学校の勉強の理解度に差があることがうかがえます。



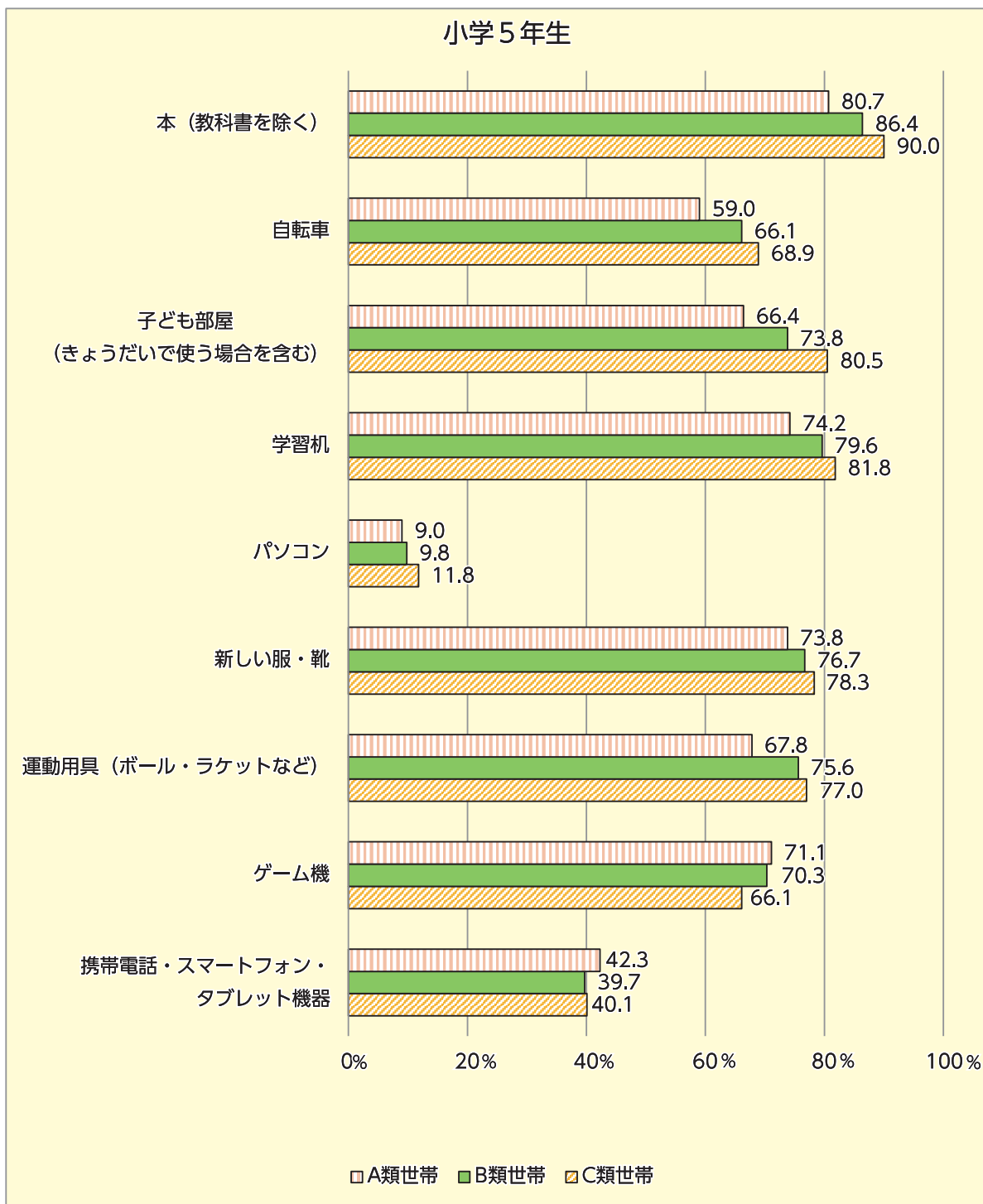
学習塾を利用していない理由（教育に関すること）（経済的負担に関すること）

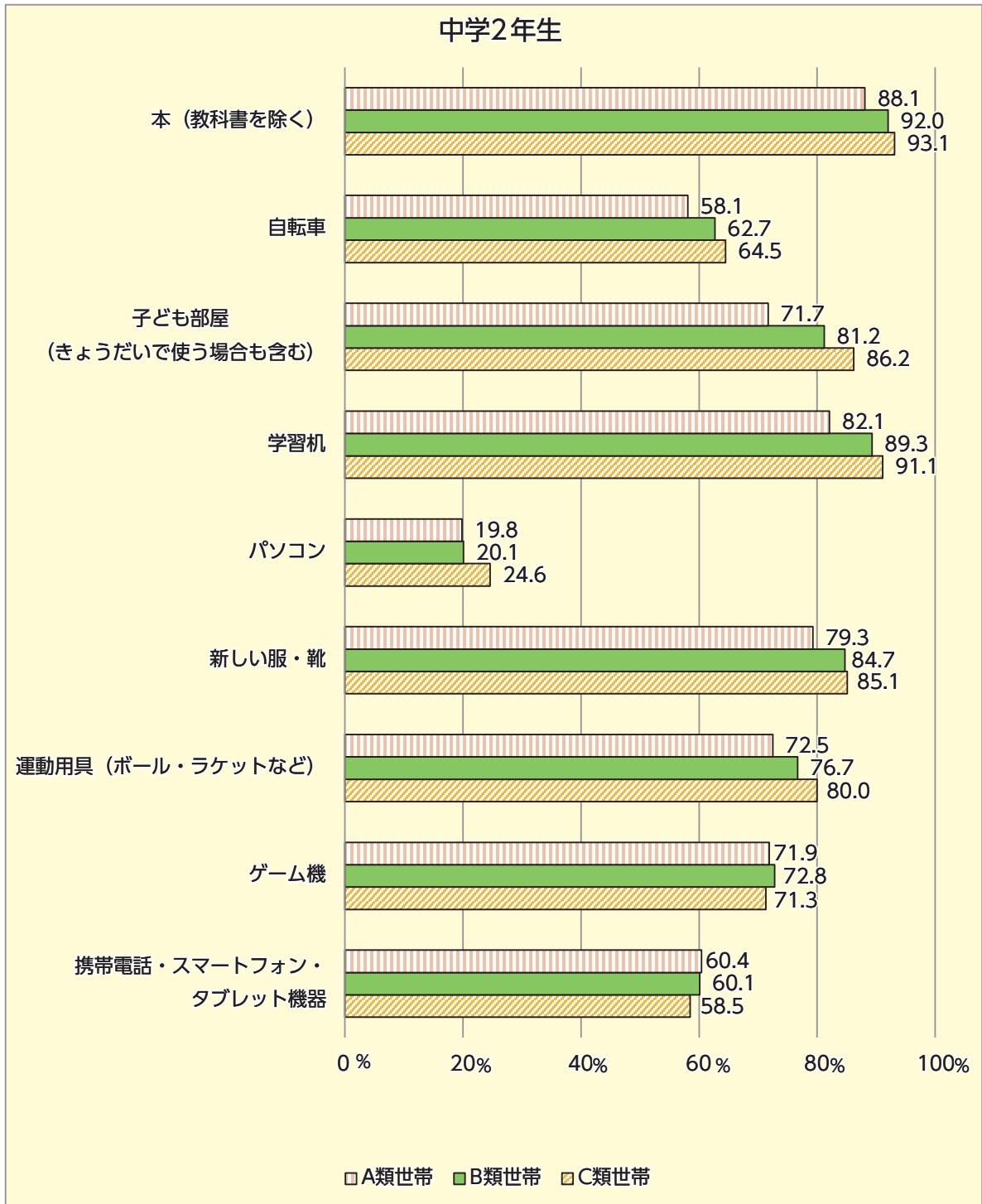
学習塾を利用していない理由を保護者に尋ねた質問では（保護者問11(2)）、「経済的な理由から」との回答がA類世帯ほど高くなっており、家庭の経済的状況が、子どもの学習塾利用といった学校以外における教育機会の差に影響していることがうかがえます。



子どもの持ち物（教育に関すること）（経済的負担に関すること）

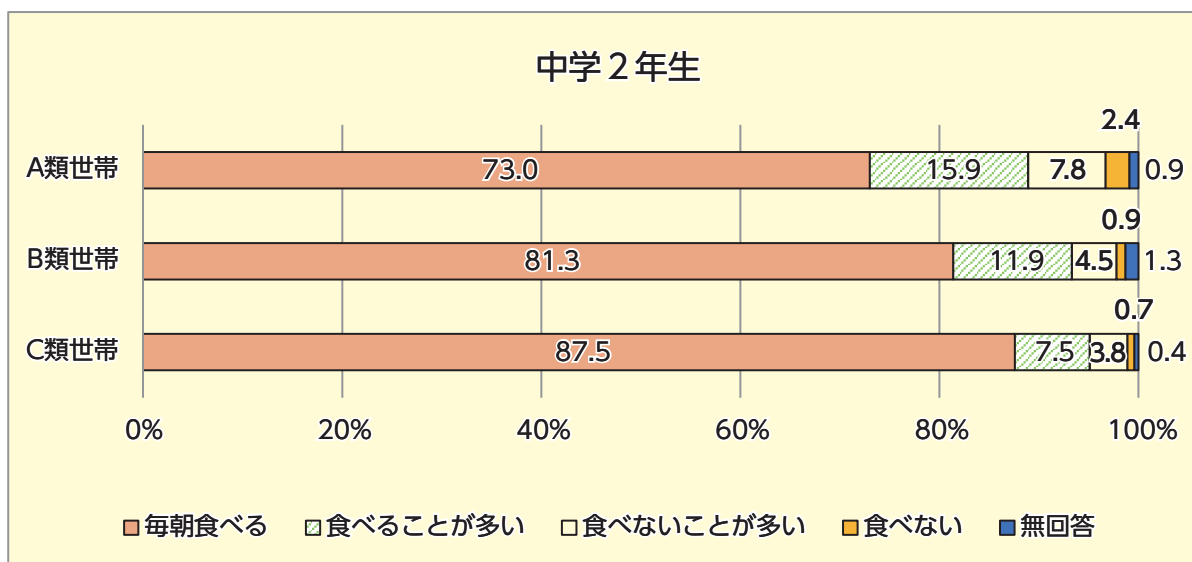
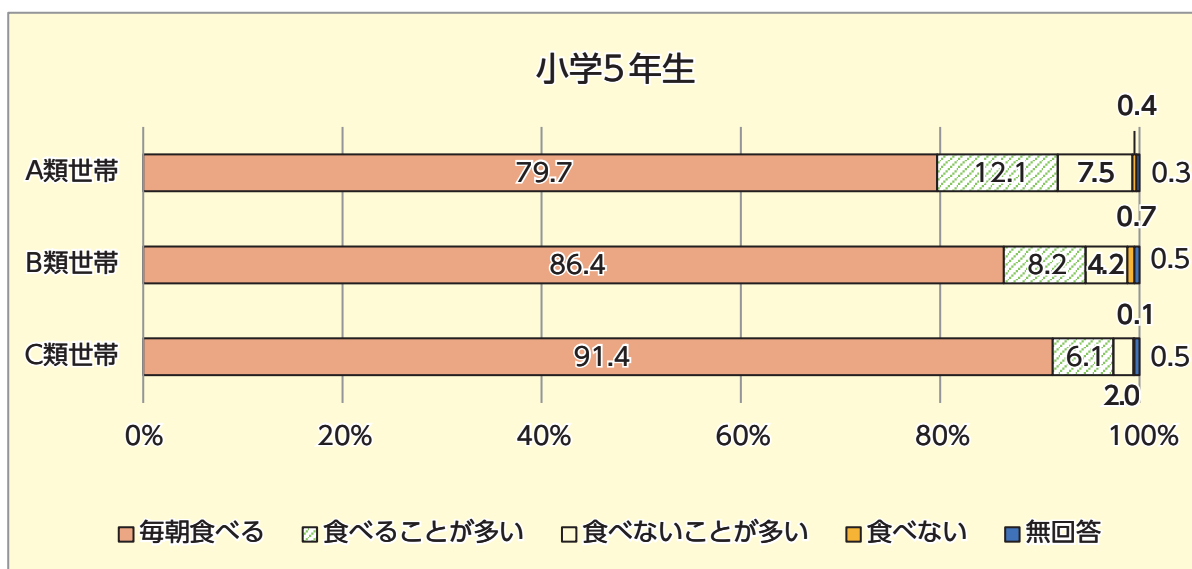
家庭における子どもの持ち物について尋ねた質問（子ども問14）では、多くの項目において、所得が高くなるほど持っているという結果でした。このことは、家庭の経済的状況によって、家庭における学習環境（例えば教科書以外の本・子ども部屋・学習機の有無など）において差が生じていることが分かります。





朝食の摂取状況（生活に関すること）

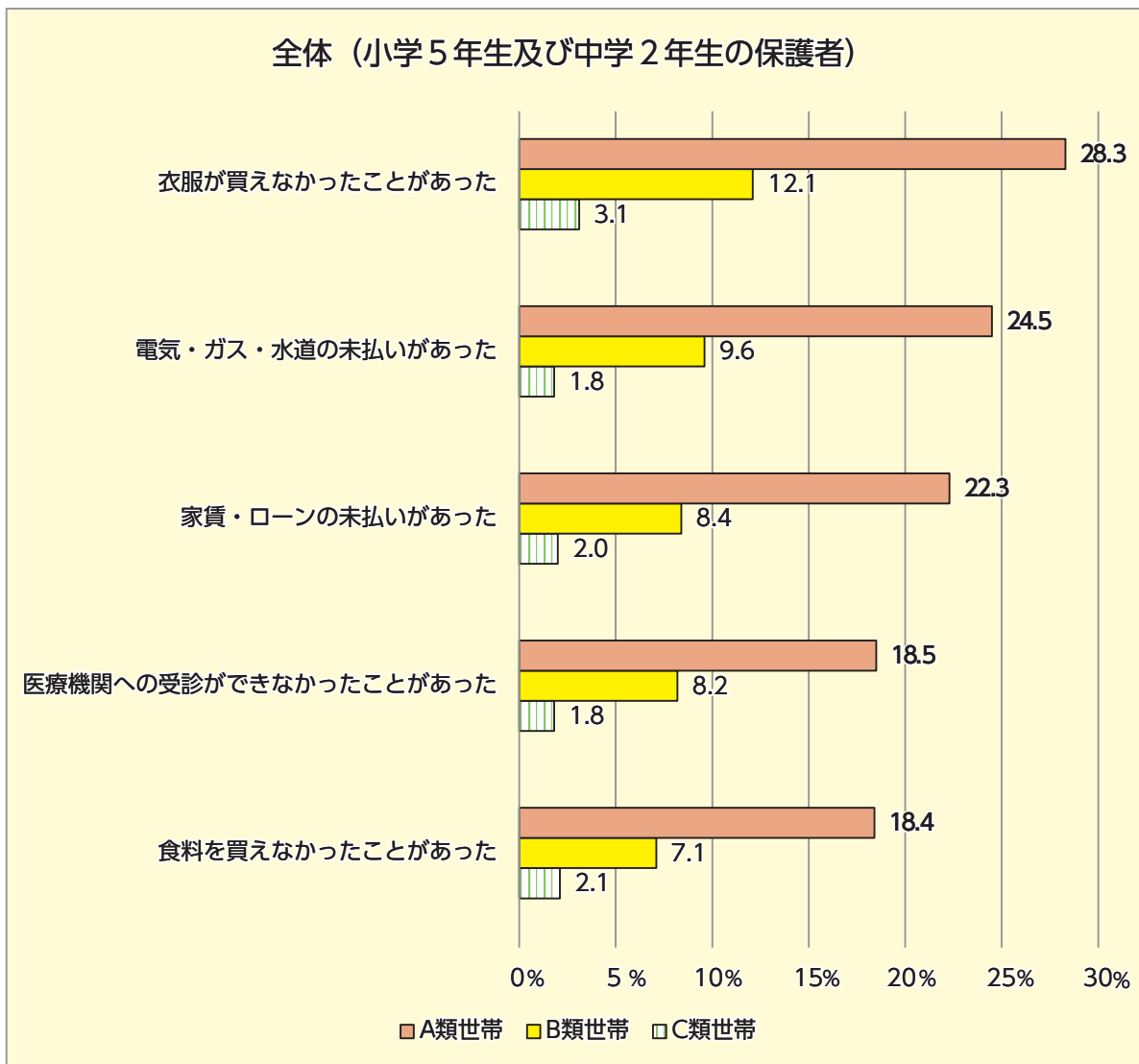
朝食に関する質問（子ども問3(1)）では、「食べないことが多い」+「食べない」と回答した子どもの割合がA類世帯で高くなっており、家庭の状況が子どもの生活習慣に影響を与えていることがうかがえます。



(5) 保護者に関する項目

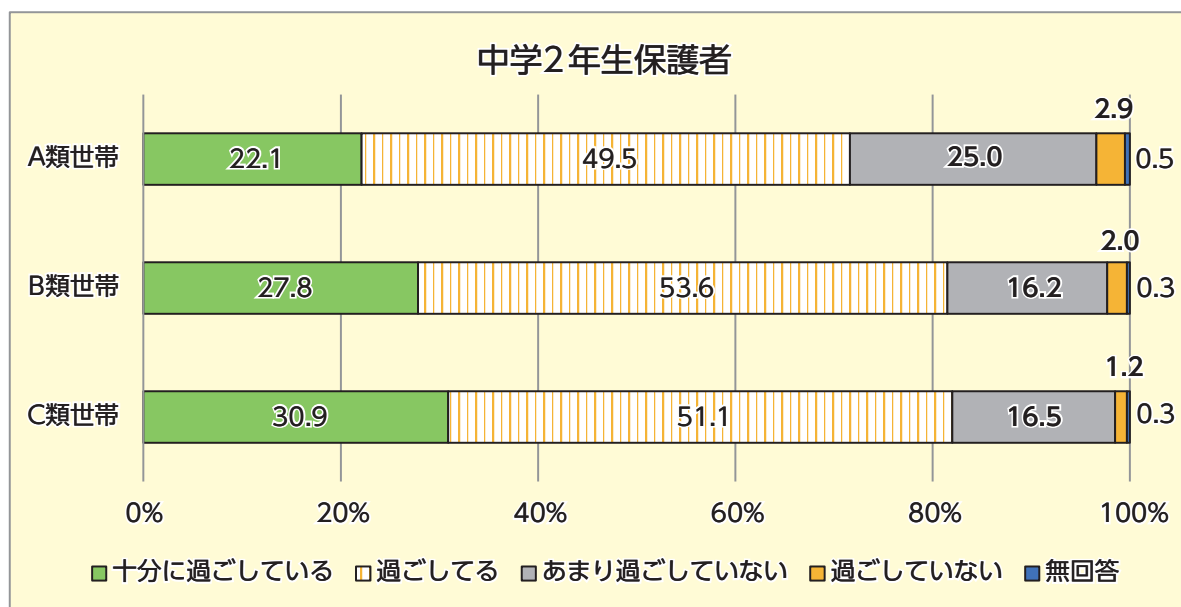
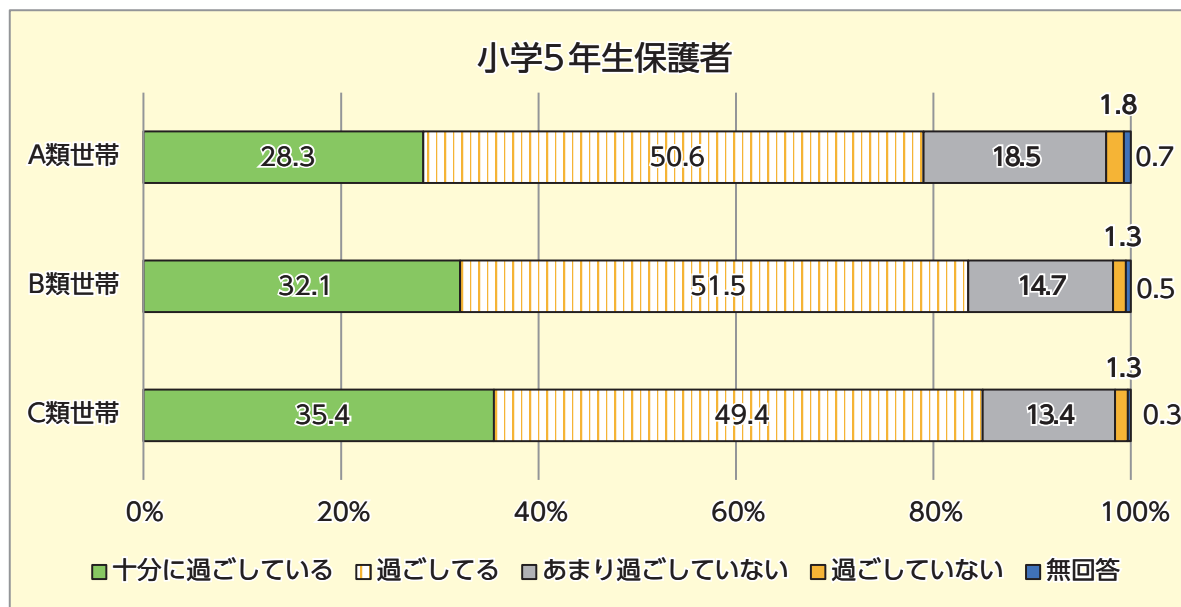
家計支出について（生活に関すること）（経済的負担に関すること）

家庭における過去半年間の家計支出について尋ねた質問では（保護者問9）、A類世帯では全ての項目で家計支出が厳しい状況となっています。このことから、A類世帯の方々が、衣食住といった日々の生活の支出にも困っている状況が見て取れます。



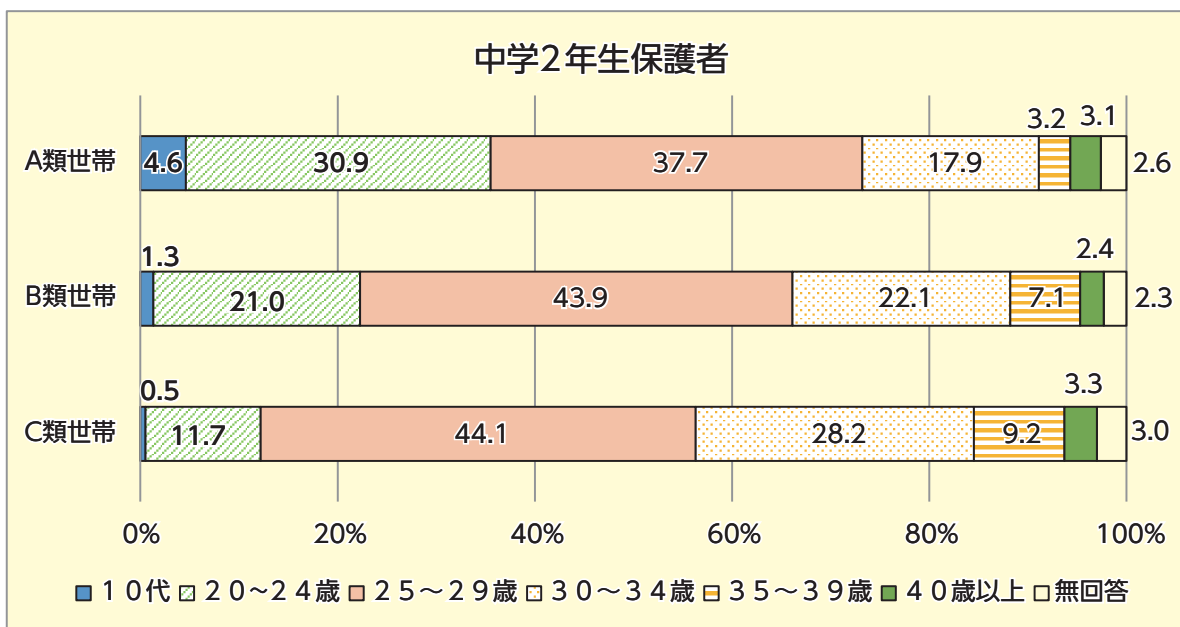
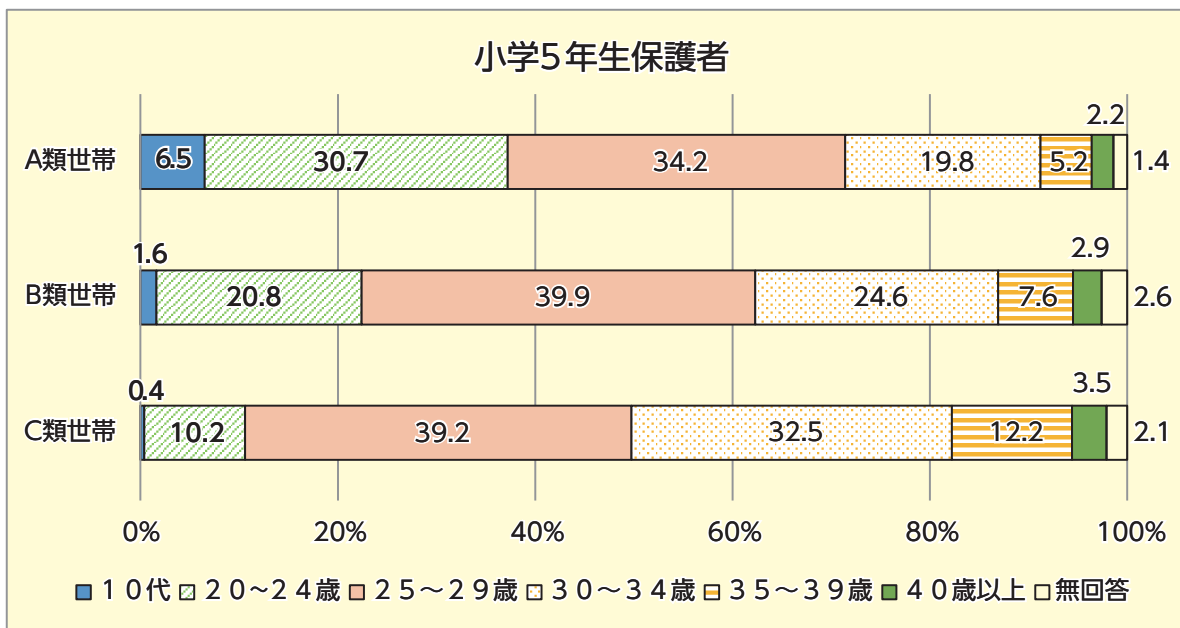
子どもと過ごす時間（生活に関すること）

保護者が子どもと時間を過ごせているか尋ねた質問（保護者問8）では、「あまり過ごしていない」+「過ごしていない」との回答がA類世帯で高くなっており、家庭の状況が親子で過ごす時間に影響を与えていることがうかがえます。



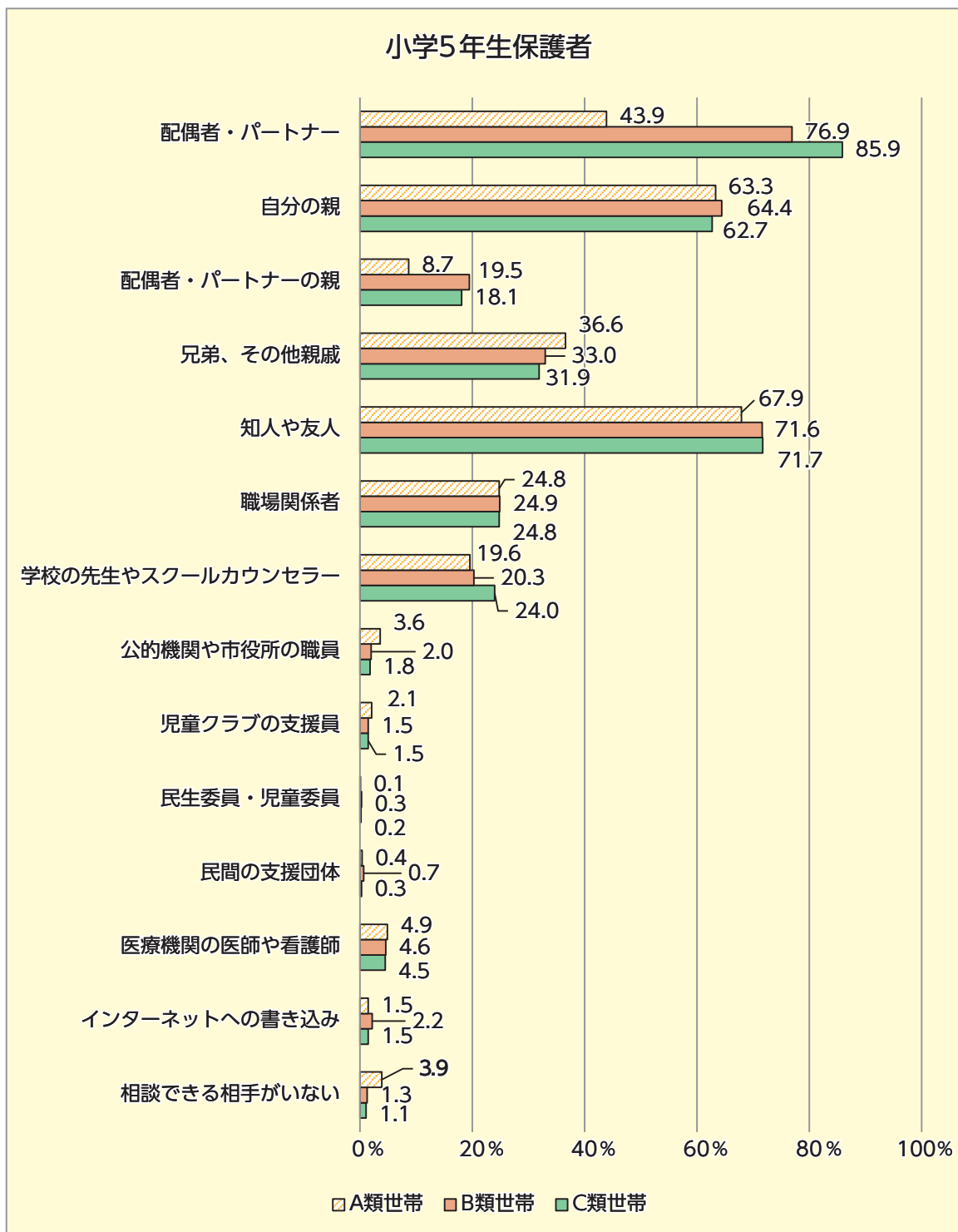
親になった年齢（生活に関すること）

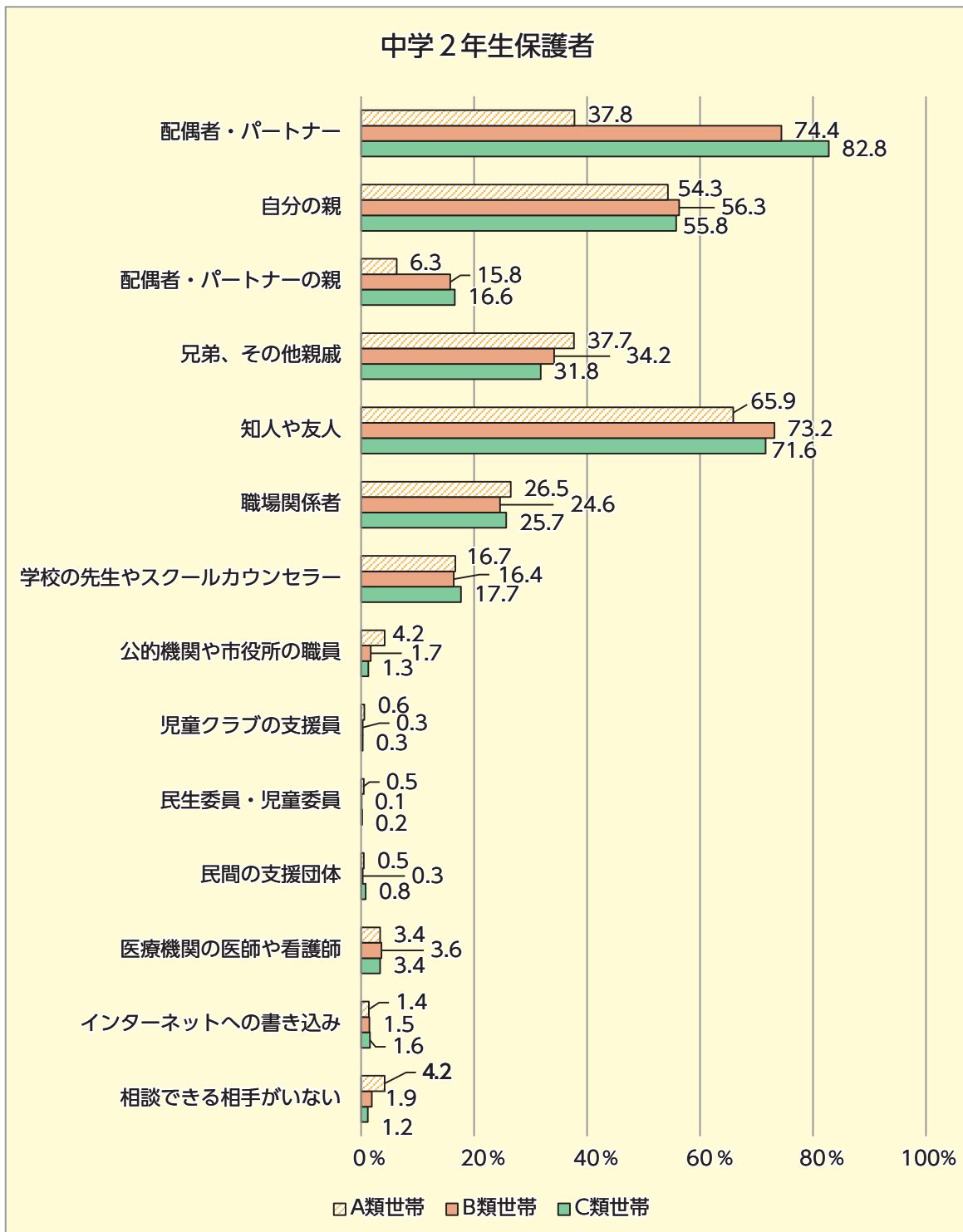
保護者が親になった年齢を尋ねた質問（保護者問19）では、「10代」+「20～24歳」との回答がA類世帯で高くなっており、若くして親になった方ほど、経済的に困っている状況であることがうかがえます。



相談相手（生活に関すること）

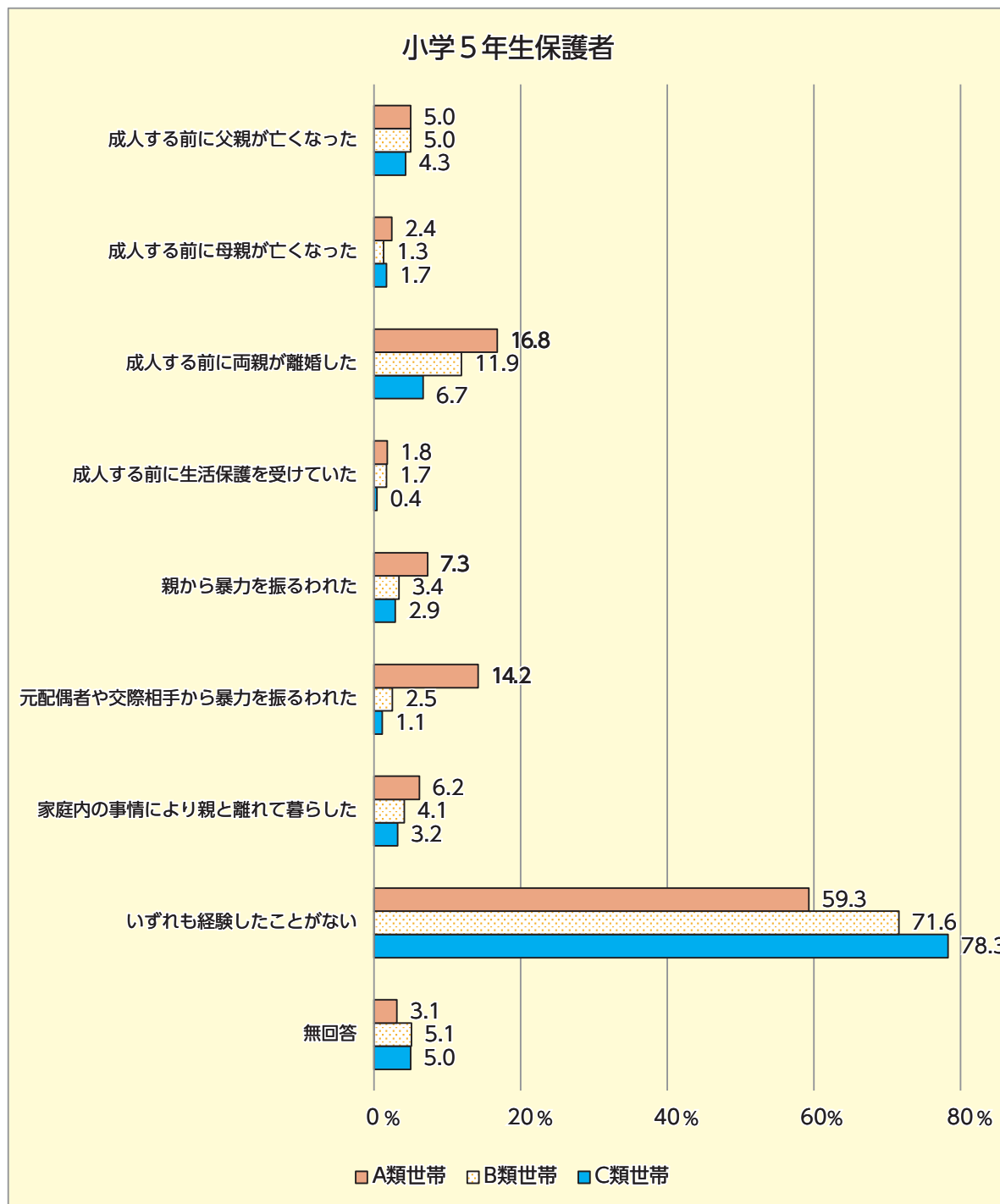
保護者の相談先や相談相手についての質問（保護者問17）では、「相談できる相手がない」との回答がA類世帯で高くなっており、困っている家庭の中には、社会から孤立している方が一定数いることが分かります。

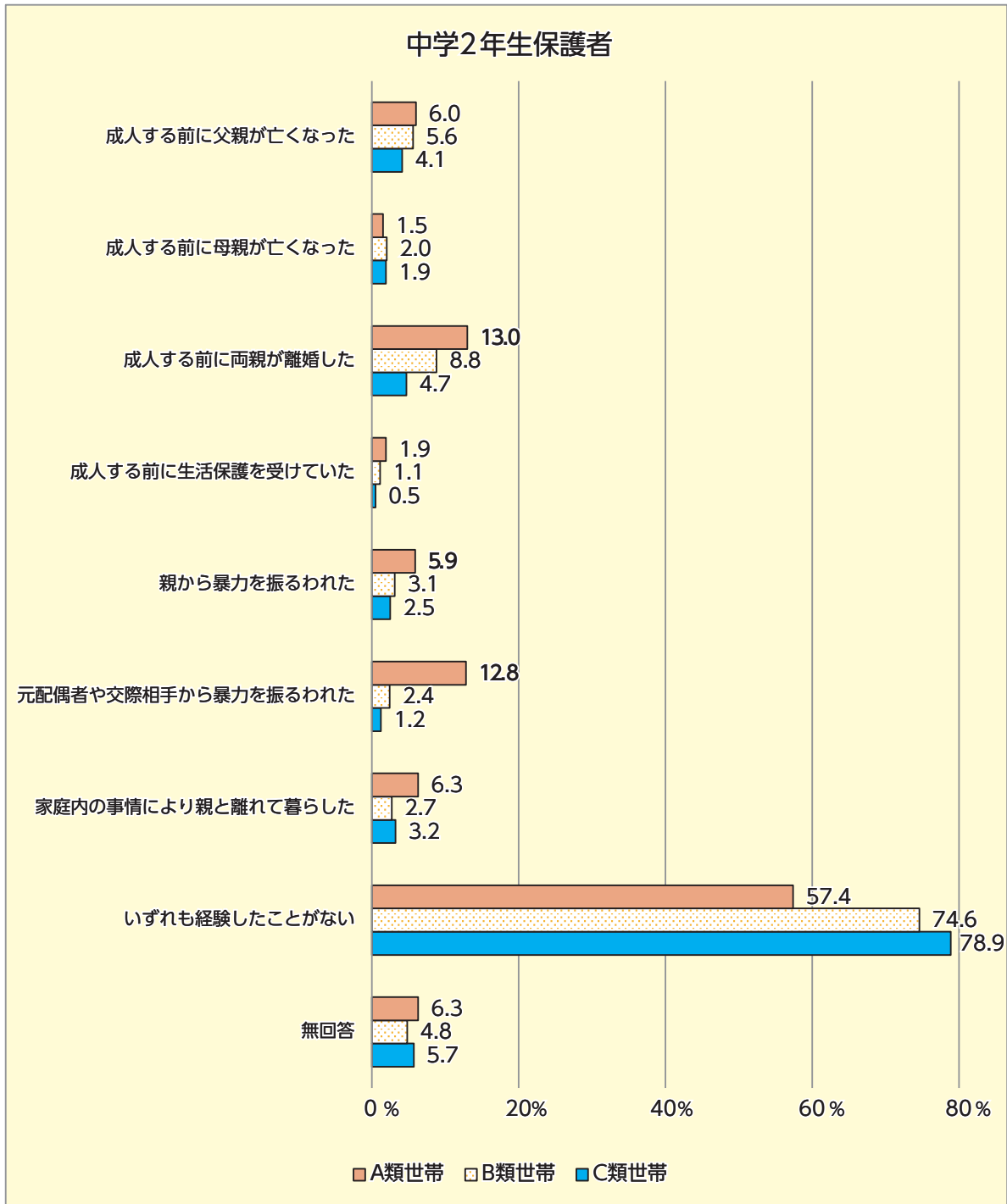




困難経験（生活に関すること）

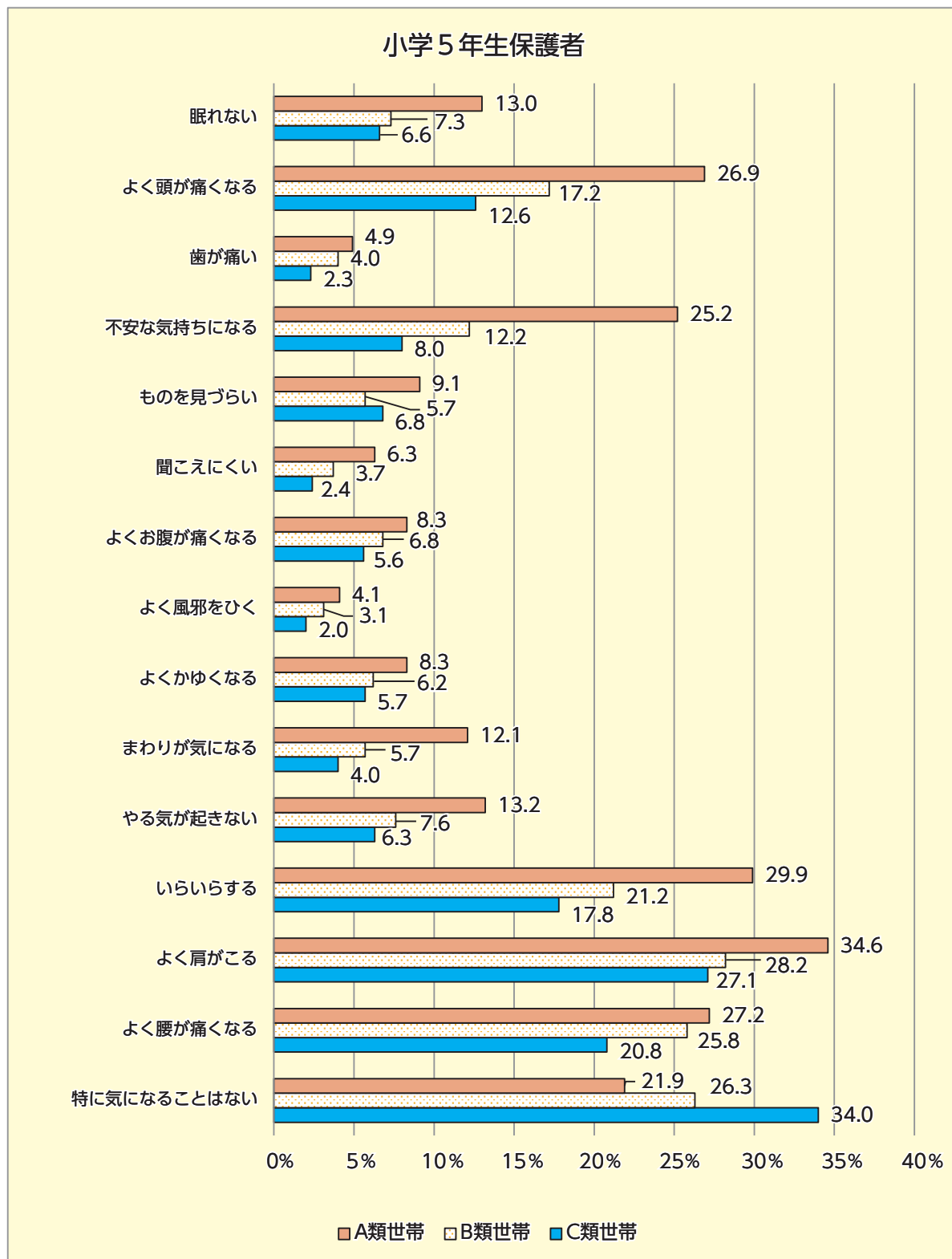
保護者の困難経験の有無に関する質問（保護者問21）では、「成人する前に親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」「元配偶者や交際相手から暴力を振るわれた」との回答がA類世帯で高くなっており、保護者自身も様々な背景を抱えていることがうかがえます。

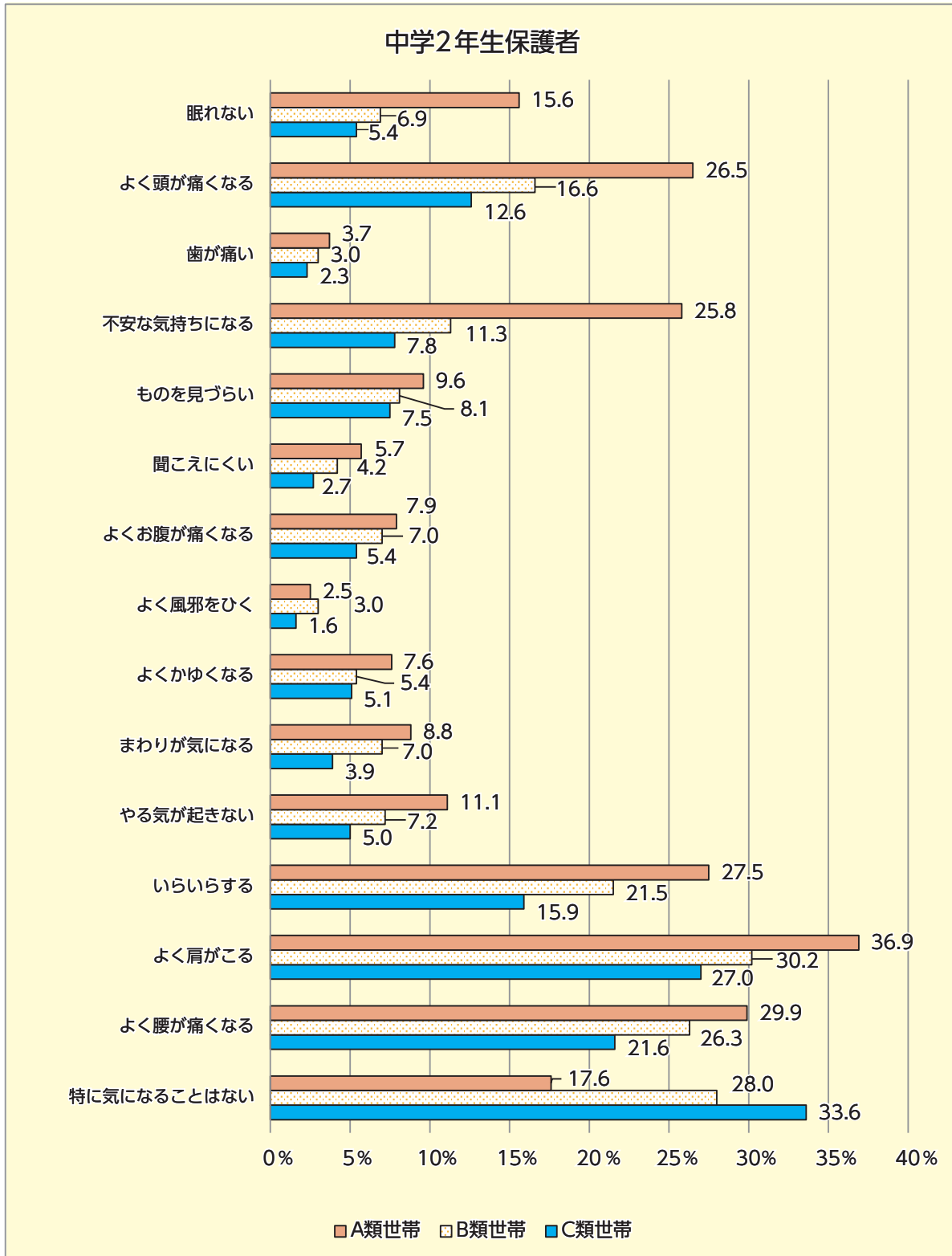




体や気持ちで気になること（生活に関すること）

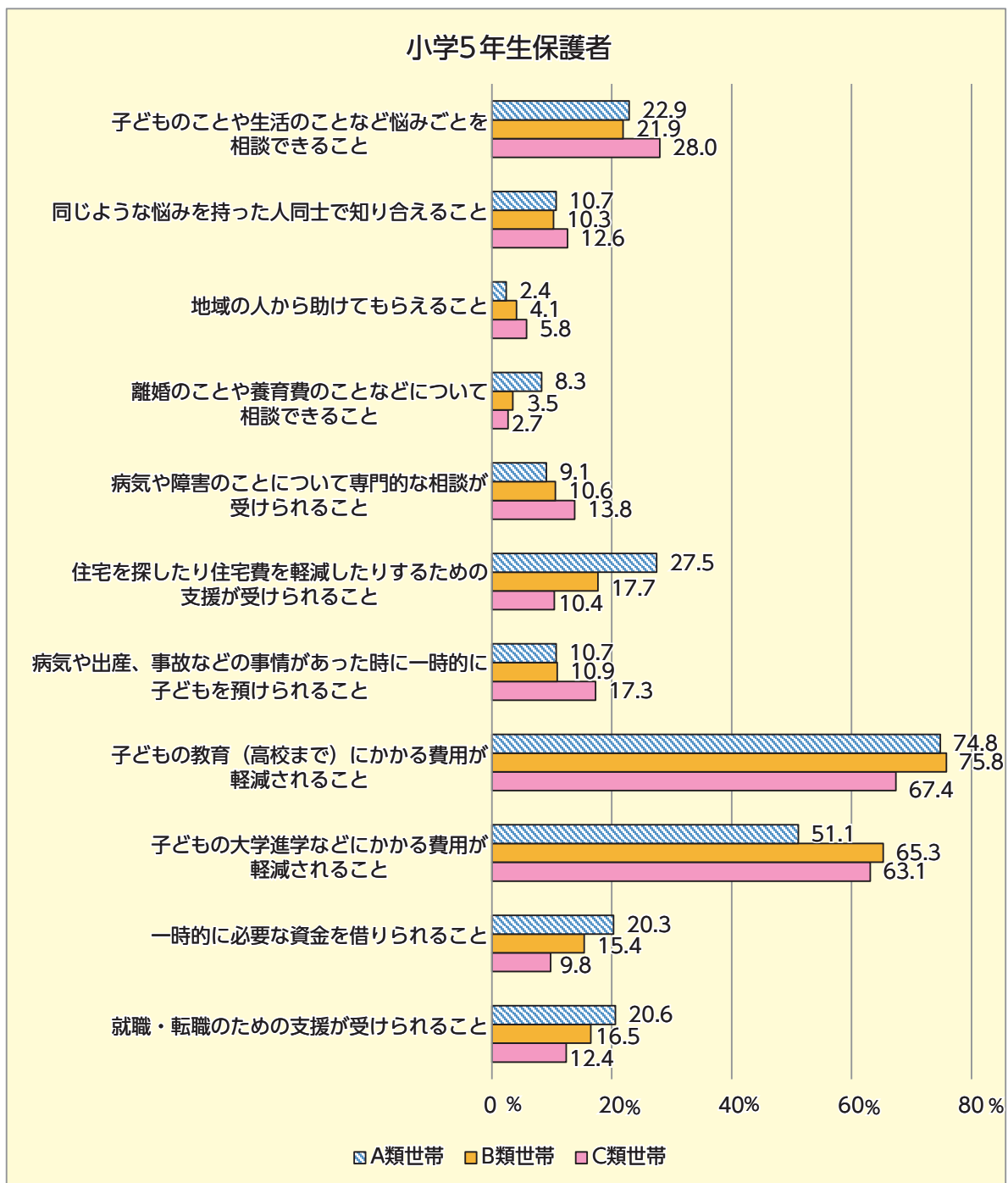
保護者の体調面に関する質問（保護者問22）では「よく頭が痛くなる」「不安な気持ちになる」「いらいらする」「よく肩がこる」との回答がA類世帯で高くなっており、家庭の状況が保護者の健康面に影響を与えていることがうかがえます。

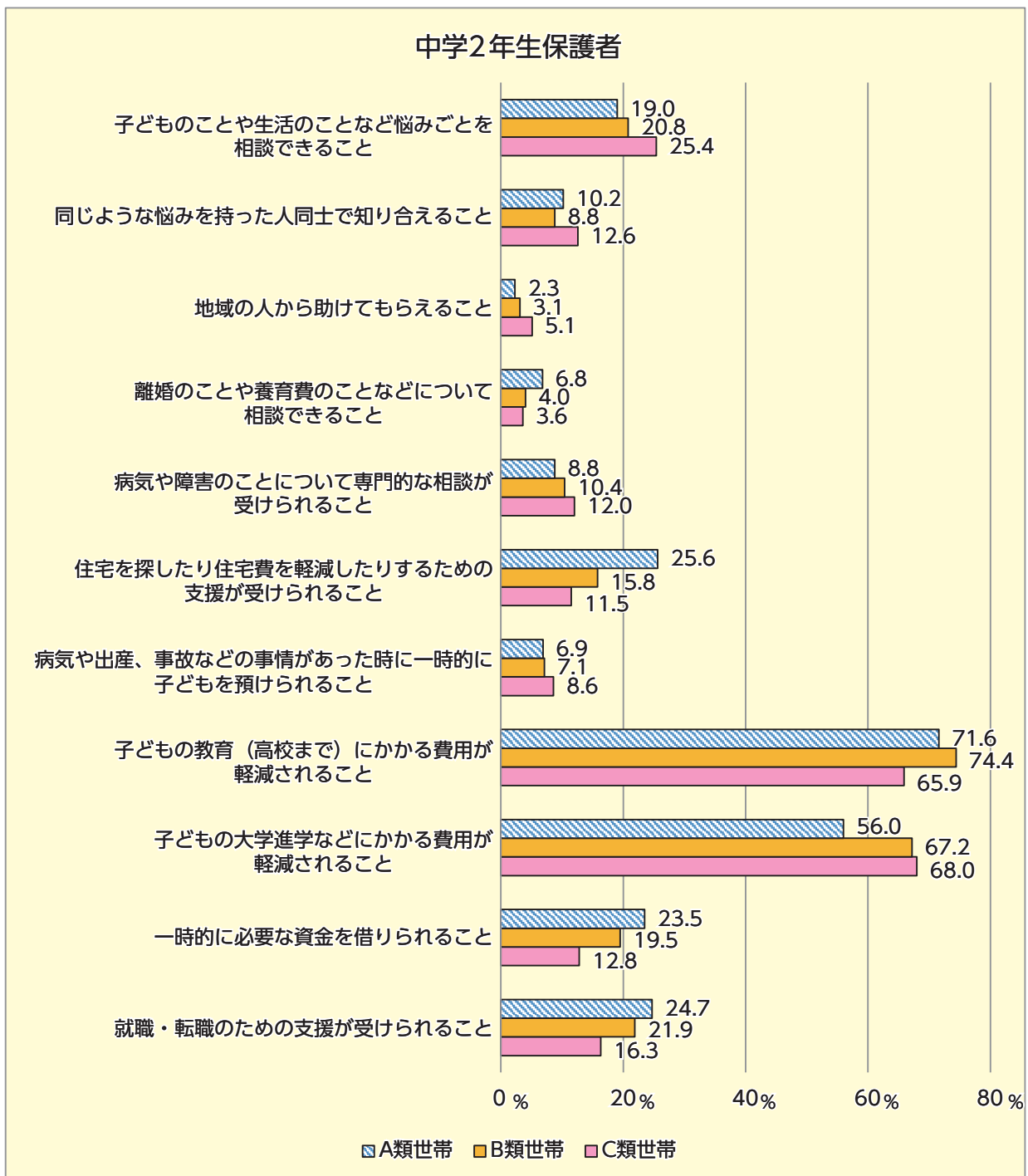




市の取組について必要としていること、重要だと思う支援（生活に関すること）

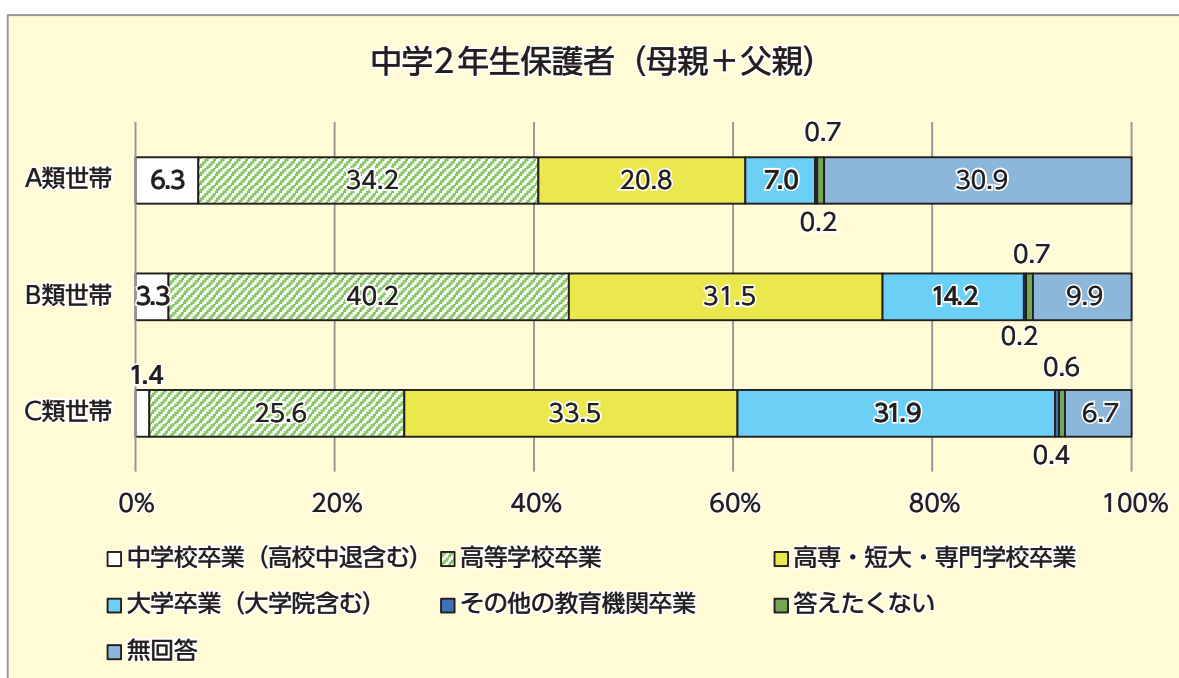
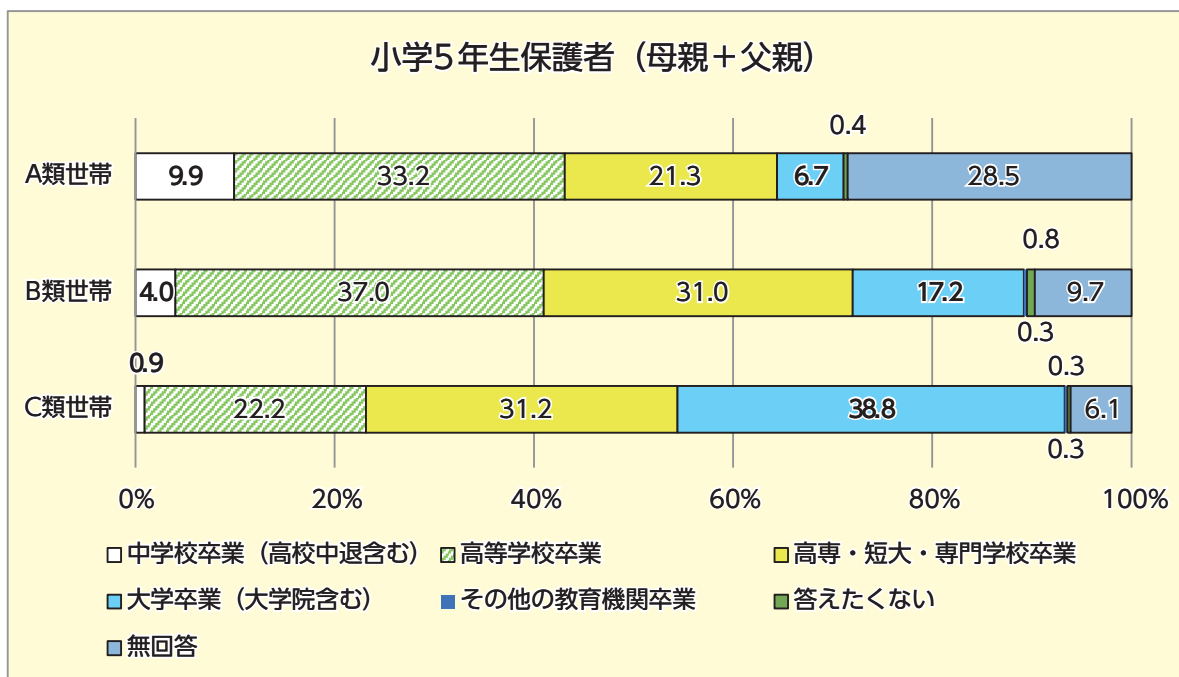
保護者が市の取組として必要としていること等を尋ねた質問（保護者問24）では、「子どもの教育（高校まで）にかかる費用が軽減されること」「子どもの大学進学などにかかる費用が軽減されること」が全ての世帯で高くなっていますが、A類世帯においては「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」や「一時的に必要な資金を借りられること」「就職・転職のための支援が受けられること」の項目が高くなっており、家庭の状況により、市に求める取組内容に違いがあることが分かります。





保護者の最終学歴（保護者の就労に関すること）

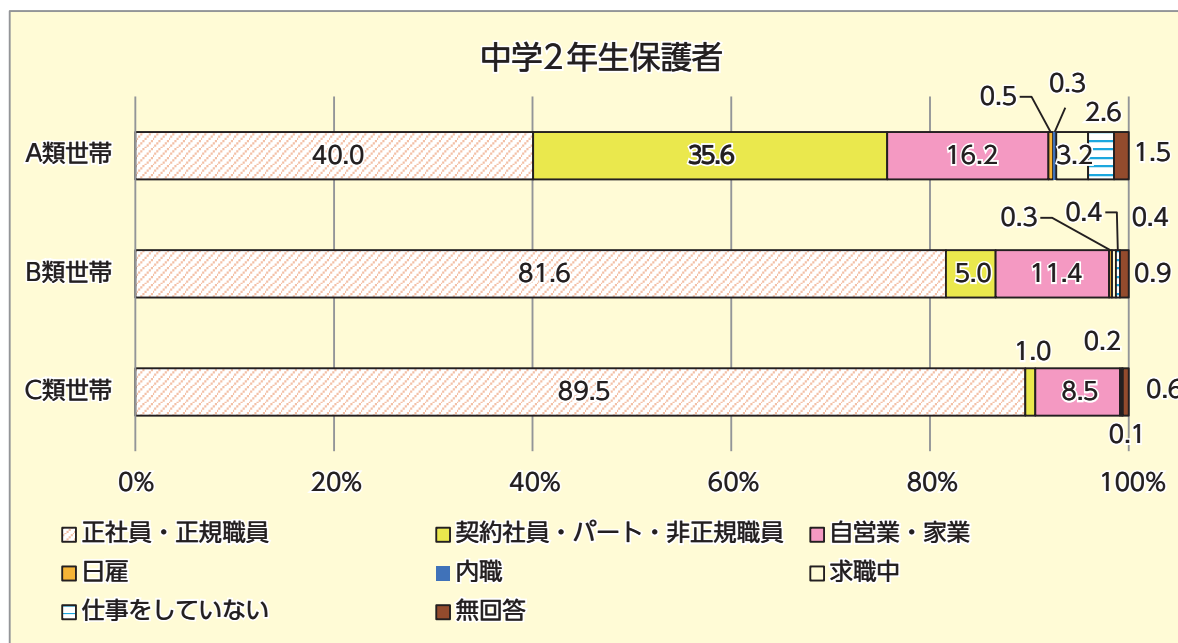
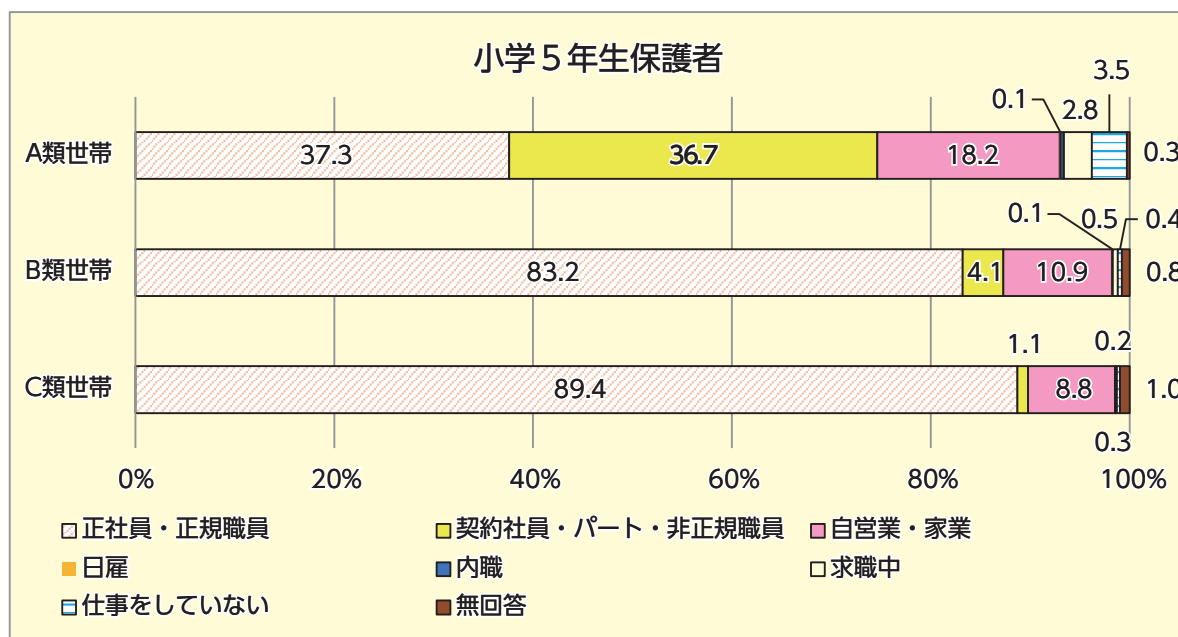
保護者の最終学歴について尋ねた質問（保護者問4）では、A類世帯ほど「中学校卒業（高校中退含む）」と回答した割合が高く、一方C類世帯では「大学卒業（大学院含む）」と回答した割合が高くなっており、学歴によって経済的状況に差が出ていることが分かります。



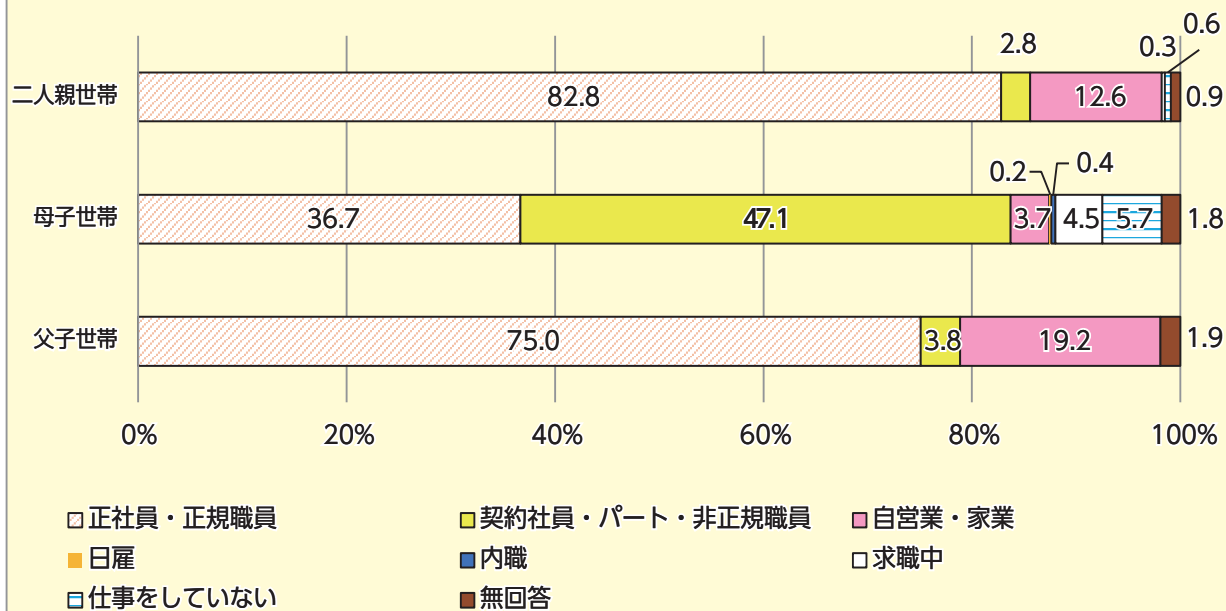
就業状況（保護者の就労に関すること）

保護者の現在の就業状況について尋ねた質問（保護者問6）では、「契約社員・パート・非正規職員」と答えた割合がA類世帯で高くなっています。また、世帯別に見た場合、母子世帯で「契約社員・パート・非正規職員」と答えた割合が高くなっています。

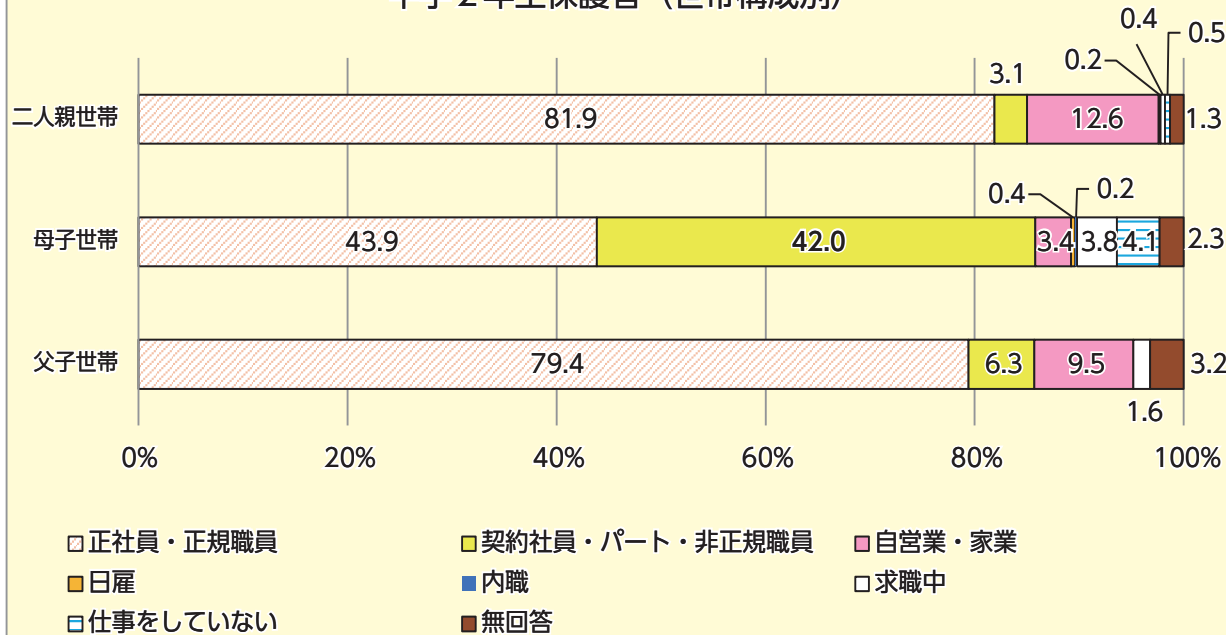
このことから、働いていないから貧困なのではなく、働いていても、雇用環境等により貧困であるということが分かります。



小学5年生保護者（世帯構成別）



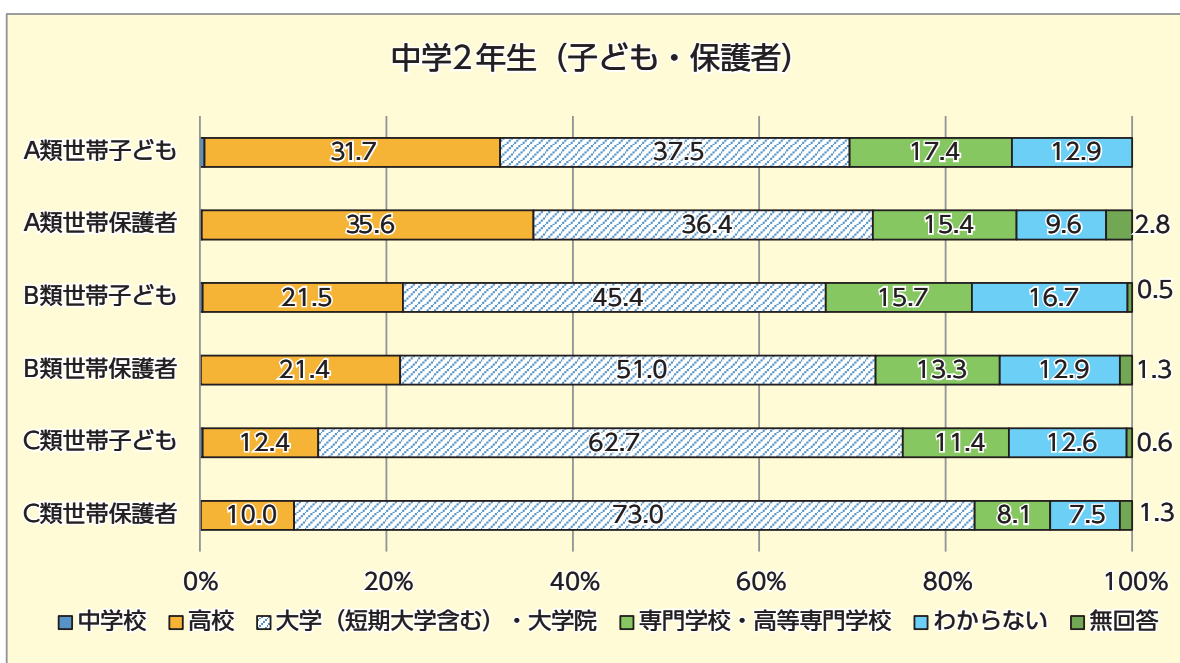
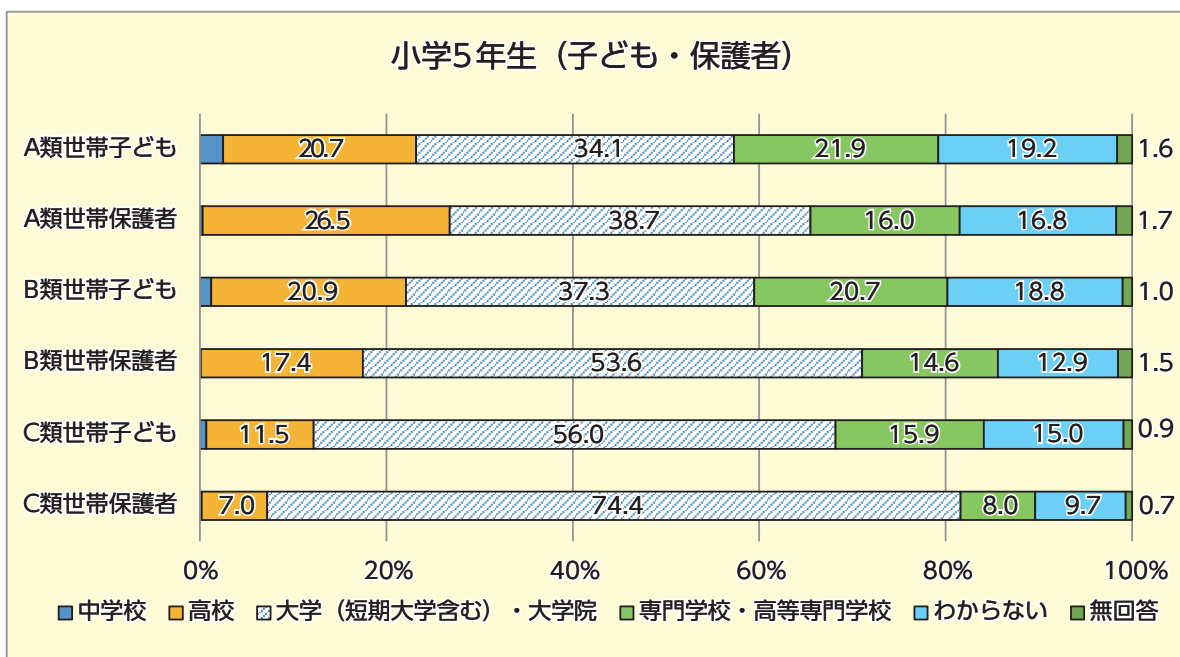
中学2年生保護者（世帯構成別）



(6) その他（子どもの進学について）

子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先（教育に関すること）

子ども自身が希望する進学先（子ども問12）と保護者が望んでいる子どもの進学先（保護者問12(1)）について尋ねた項目では、「高校」と答えた割合が、小学5年生・中学2年生ともに、A類世帯では子どもよりも保護者で高くなっています。このことは、A類世帯で大学等への進学を希望する子どもの中には、家庭の事情により希望する進学を果たすことができない状況があるということを示唆しています。



子ども自身が希望する進学先に進めないと思う理由（教育に関すること）

保護者に子どもが希望する進学先に進めないと思う理由を尋ねた質問（保護者問12(3)）では、A類世帯の保護者ほど「経済的な理由から」と答えた割合が高くなっており、家庭の事情により希望する進学を果たすことができない状況があるということを示唆しています。

